



Title	HUNHM所蔵アイヌ民族資料収集情報の再検討を可能とする史料について
Author(s)	加藤, 克
Description	この資料はサイト「札幌博物館研究」 http://www.fsc.hokudai.ac.jp/mk_hunhm/index.html からもダウンロード可能です。 http://www.fsc.hokudai.ac.jp/mk_hunhm/index.html
Citation	札幌博物館研究会誌, 2019, 1-77
Issue Date	2019-06-21
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/74927
Type	journal article
File Information	J_HUNHM_2019_01.pdf



HUNHM 所蔵アイヌ民族資料収集情報の再検討を可能とする史料について

加藤 克ⁱ

ⁱ 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園 Botanic Garden, Field Science Center for Northern Biosphere, Hokkaido University, 060-0003, Sapporo, Japan

はじめに

HUNHM⁽¹⁾ 所蔵アイヌ民族資料は、1877（明治 10）年の札幌博物館設立から収集されてきたものであることから、明治前期のアイヌ文化の様相を把握できること、また開設当時のお雇い外国人教師の指導及び大学の博物館であったという背景から、資料の収集情報が比較的豊富に付属しており、日本の博物館のアイヌ民族資料の中でも重要な研究資源として評価されている。しかし、資料管理の歴史において生じたいくつかの問題から、情報の欠落や付属する収集情報の信頼性に問題があると考えている。この問題に対し、筆者は HUNHM に保存されていた資料カードや資料に付属するラベルの調査を通じて資料情報の復元や質の向上を試みた（加藤 2004, 2008）。しかしながら、関連史料の不足から必ずしも資料群全体の問題を解決するには至らず、課題として残さざるを得なかった点がある。本稿は、それらの課題の一部を解決するために利用できる可能性がある史料が見出されたことから、その第一段階として当該史料を紹介するとともに、その史料を用いた課題解決の方向性を示すものである。

問題の所在

現在の HUNHM における資料・標本管理は、設立から 80 年以上が経過した 1961（昭和 36）年に運用が開始された資料台帳に基づいて行われている。現行資料台帳が収集と同時に運用されたものではなく、二次的に作成されたものであるため、古い時代に収集された資料に対して記載されている収集情報には少なからず問題が確認されている。例えば、図 1 に示したような「二十年」という採集年次の記載がある資料に対し、あるものは 1887（明治 20）年、あるものは 1945（昭和 20）年としている場合がある。この事例の場合は、1887 年に HUNHM の所属教員が礼文島で当該資料の収集をしていたという記録とその調査における収集資料目録⁽²⁾が残されていること、図 1 のラベルが 19 世紀の収集資料に付属している傾向から、本来「明治 20 年」を意味していたラベルの「二十年」を「昭和 20 年」と誤認したために生じた混乱であることを確認できる（加藤 2011a）が、これら以外にも現行資料台帳や後世に付与されたラベルの記載には潜在的に問題のある情報が含まれていることは明らかである（加藤 2012; 加藤ら 2012 など）。



図 1. 明治と昭和に読み取られた「二十年」の記載があるラベル

HUNHM 所蔵アイヌ民族資料は明治時代収集という情報を持つものが多いが、その収集情報は資料台帳のみに記載され、資料には情報が付属していない場合、また、資料に情報が付属している場合でも、現行資料台帳の運用以降に用いられるようになった資料ラベル（図 2）のみにその情報が記載されている場合など、その収集情報が明治期からどのように継承されてきたのかが明確にならない事例が多い。上述したように、現行資料台帳の情報に全幅の信頼をおけない以上、その情報については慎重に取り扱い、可能であるならば信頼できる形での確認作業を行うことが求められる。この課題に対し、筆者は 1890 年ごろに作成されたと考えられる民族資料カードを利用し、図 3（以下ラベル 1）、図 4（以下ラベル 2）に示した資料ラベルがこの整理作業時に利用されたものであることを明らかにした。ラベル 1 には「札

(1) 2019 年現在の正式名称は北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園。HUNHM は 1877 年に開拓使札幌博物館として設立された後、所属機関の変更や名称が複数回変更されている。本稿では煩雑さを避けるため、1961 年以降に利用している所蔵機関名称 Hokkaido University Natural History Museum の略号で統一して表記する。なお、本稿における記述には現在では差別的な表現ととらえられるものが含まれているが、記載当時の状況を明確に示すため、歴史的史料を利用する場合に限り修正することなく引用した。

(2) 札幌農学校「復命書編冊」（北海道大学大学文書館所蔵札幌農学校簿書 319）。

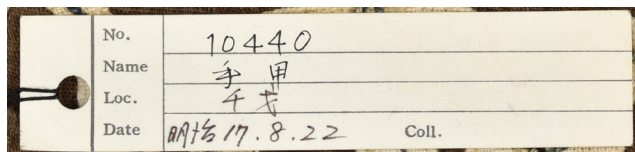


図2. 現行資料台帳と同時に利用されるようになったラベル



図4. ラベル2



図3. ラベル1

幌農学校所属博物館」の印があることから、ラベル1が付属するアイヌ民族資料は明治期に収集されたものであることは自明⁽³⁾であるが、ラベル2のみ、あるいはラベルの貼り付けの前後関係からラベル2よりも古い時代に用いられていたと考えられるラベルが貼り付けられている資料も明治期収集資料と評価できることを確認した。また、ラベル1及びラベル2に記載されている番号が民族資料カード記載の番号と合致することから、カード記載の収集地情報を追加できることを示した(加藤 2004)。しかしながら、この調査は明治期に用いられていたラベルが資料に付属している場合のみに有効なものであって、明治時代収集という情報を持ちながら、ラベルが付属していない資料には適用できなかった。また、民族資料カードも HUNHM の収集活動開始からそれほどの時間を経たしたものではないが、後述するように資料管理に混乱が生じた後に作成された二次的なものであって、その記載に混乱が含まれていないとは断言できない。ここから、これまでの検討は所蔵資料情報の問題を解決する上で不十分なものであったが、旧稿段階では十分な情報を得ることができなかったため、課題として残さざるを得なかった。

ここで、旧稿段階でアイヌ民族資料の管理史を把握する上で利用することができた主な史料について整理しておく⁽⁴⁾。

1877 年の HUNHM 設立後の所蔵資料に関する史料は、1882 年に HUNHM が設置者である開拓使から農商務省へ移管された際の資料目録⁽⁵⁾が知られている限りもっとも古いものである。この移管資料目録によれば、アイヌ民族資料は 126 件 251 点が所蔵されていたことが確認されるが、同一種の資料を一括して記載し、個別の資料番号が記載されていないことや収集情報に関する記載がないため、現存資料との厳密な照合は不可能である。

次に利用できる史料は、1884 年に農商務省から札幌農学校へ HUNHM が移管された際の資料目録⁽⁶⁾(以下 1884 移管目録)である。1884 移管目録では、1883 年 7 月段階における所蔵アイヌ民族資料 130 件 240 点⁽⁷⁾、1883 年 2 月から 12 月に収集された 34 点、1884 年 1 月から 6 月に収集された 53 点が記載されている。収集時期が限定される 87 点については同一種の資料をまとめて記載せず 1 点ごとに記載していることから、当該時期に収集されたという記録を持つ資料と照合することができる可能性はあるものの、詳細な採集日は把握できないこと、また個別の資料番号や収集地情報なども記載されておらず、厳密な照合は困難である。

HUNHM のアイヌ民族資料の収集活動について、収集場所や収集された資料に関する情報が確認される史料は、HUNHM が札幌農学校へ移管された直後にあたる 1884 年の「明治一七年年報開申の件 所轄札幌博物場⁽⁸⁾」である。これによると 1883 年 12 月以降、1884 年 11 月までに HUNHM によって収集されたアイヌ民族資料は 63 点であり、ここには「本年一月土人器物採集ノ為め胆振国千歳郡二場員ヲ派遣シ且ツ同郡長都村ニ於テ旧土人ノ執行セル所謂熊祭ナルモノヲ調査セシム、該祭ハ土人ノ大礼

(3) 札幌農学校は 1876 (明治 9) 年から 1907 (明治 40) 年まで設置されていた北海道大学の前身である。

(4) 詳細については加藤 (2008) を参照されたい。

(5) 農商務省北海道事業管理局庶務課「札幌博物場・札幌牧羊場・札幌育種場引継書類」(北海道立文書館簿書 7263)。

(6) 農商務省北海道事業管理局札幌農業事務所「博物場・農学校へ転轄書類 明治十七年六月三十日ヲ期シ」(北海道立文書館簿書 8532)。

(7) 1882 目録の 251 点から所蔵資料点数が減少している理由は、1883 年に農商務省博物局に一部の資料が移管されたためである(加藤 2008)。

(8) 札幌農学校「本局上申稟議録 明治十七年自一月至十二月」(北海道大学大学文書館所蔵札幌農学校簿書 194)、なお、資料名は『北大百年史』札幌農学校資料(一)に依拠する。

トスル所ナリト雖トモ皇化ノ治及ニ随ヒテ漸ク湮滅ニ歸セントスルヲ以テ其祭器ハ之ヲ購求若クハ模造シ尚略図等ヲ以テ之ヲ伝ヘ以テ攷古ノ資ニ供」する目的で収集されたものが含まれているとされる。しかしながら、現存資料では 1884 年 1 月という記録を持つものは沙流で採集されたもののみであり、千歳で収集された資料は 4 月のものしか確認されない。また、千歳・沙流いずれの収集資料も熊送り関係資料であるとは位置付けがたく、この史料の裏付けが取れない。現存資料の中で、当該期の収集という記録があるものは 40 点弱であり、20 点近くの資料が失われたか、収集年代記録が欠落していると考えられるので、収集年次のない熊送り関連資料の中に含まれている可能性もあるが、「千歳」収集という記録のあるものの中に該当する可能性のあるものは見出せない。このため、年報の記述に問題があるのか、現存資料に付属する収集情報に問題があるのか判然としていない。

次に利用できる材料は、上記年報の記載につながる 1884 年 12 月以降 1885 年 11 月までに HUNHM で収集された資料の増減表「博物場列品表⁽⁹⁾」である。この史料によれば当該期間にアイヌ民族資料は収集されておらず、所蔵資料数は 340 点のままである。しかしながら、現存資料には 1885 年に収集されたとされるものが 7 点確認されるとともに、当該期間中にイギリスで開催された万国発明品博覧会に 2 点の楽器資料が出品され、減少していたことが確認されている（加藤 2008）。個別の資料に関わる記載がないことと合わせ、この「博物場列品表」の記載を全面的に信頼して利用することはできない。

次に利用できる材料は、1886 年 3 月以降に HUNHM が収集した資料がおおむね年次順に記載された「札幌農学校所属博物館標本採集日記」（以下「採集日記」、加藤 2002, 2003, 2006, 2007, 2011b）である。HUNHM では「採集日記」の運用が開始された 1886 年までには資料番号を利用した資料管理が行われていたようであり、「採集日記」には資料分類ごとに与えられた類別番号とともに資料名、収集地、収集年月日、収集・寄贈者などの情報が記載されている。アイヌ民族資料であれば 1887 年 8 月に礼文で収集された「エムシ」に「357」の類別番号が、「リクトンベ」に「358」の類別番号が与えられている（表 1）。しかし、鳥類標本の管理史（加藤ら 2009）において確認したように、「採集日記」運用直後の 1890 年までには HUNHM の資料管理には混乱が生じており、上記 2 点のアイヌ民族資料の受け入れの直後の 1887 年 11 月に寄贈された「カツクミ 木柄杓」に「357」、「ペラ」に「358」、「ヨッチケ」に「359」の類別番号が与えられていること、1888 年以降に収集されたアイヌ民族資料には類別番号の記載はなく（表 1）、資料を特定するための管理台帳としての機能は失われ、民族資料の管理にも混乱が生じていたと考えられる。また、1887 年の HUNHM の資料増減表⁽¹⁰⁾ではアイヌ民族資料の増加は採集 2、寄贈 2 となっており、「採集日記」に記載されている実態と異なる記録が行われていたこともわかる。

「採集日記」はこれまでに見た移管目録類や資料増減表と異なり、固有の資料番号や収集地、収集年次、収集・寄贈者の情報が得られる点で有益であるが、記載されているアイヌ民族資料は 24 点に過ぎず、「採集日記」運用以前に収集された 356 点のアイヌ民族資料に関する情報がまったく得られないこと、後述するように資料管理の混乱前の類別番号と混乱修正後の新たな資料番号とが混在しており、記載情報の取り扱いには注意が必要である。

HUNHM における資料管理の混乱は、1890 年ごろに修正が行われ、各分野の資料に対して新たな資料番号が与えなおされた資料台帳が作成されていた（加藤ら 2009）。民族資料については修正のために作成された台帳は確認できていないものの、民族資料を種類ごとに抽出した民族資料カード（図 5）の記載から、1 から 372 の新たな番号が資料に付与されており、同様の整理が行われていたと考えられる（加藤 2004）。この整理の結果、「採集日記」の 1907 年に受け入れられた資料には民族資料カードに対応する新しい資料番号「373」以降が記載されている（表 1）。

明治時代の HUNHM 所蔵アイヌ民族資料を把握するために、旧稿段階で最も有効に利用できた材料は民族資料カードである。しかしながら、民族資料カードにも課題がある。民族資料カードに記載されている資料番号の末尾は「372」であり、「採集日記」

帽子 シヤバアンベ 2	
44	礼 帽 石狩, 石狩
287	シヤバアンベ 札幌
334	11 沙流

図 5. 民族資料カード

の 1907 年受け入れ資料が「373」の資料番号を持つことから、1900 年ごろまでに所蔵していた資料全体が記載されていたものとみられるが、現存するカードから情報が得られる資料点数は 366 点であり、一部のカードは失われている。また、カードには収集年次の記載がない。新たに付与された資料番号の配列には同一種の資料がまとまっている傾向があり、収集時期の推測や復元には利用できないため、ここまで述べてきたような 1884 年 1 月の千歳収集熊送り資料の問題や「博物場列品表」の 1885 年の資料数の増減を考察することができない。また、民族資料カード自体が資料管理の混乱修正のために新たに作成されたものであり、記載情報の信頼性についても検討を必要とする。

(9) 札幌農学校「局長上申本局稟議録」（北海道大学大学文書館所蔵札幌農学校簿書 228）。

(10) 札幌農学校「復命書編冊」（北海道大学大学文書館所蔵札幌農学校簿書 319）。

表 1.「採集日記」掲載のアイヌ民具資料

採集日	受入日	分類	類別番号	品名	地名	原由 / 備考 / 価格
20.8.18		土器	357	エムシ	礼文郡トンナイ	助教授小寺甲子二氏採集
20.8.18		土器	358	リクトンベ	礼文郡トンナイ	助教授小寺甲子二氏採集
		土人用具	357	カツクミ 木柄杓		野沢俊次郎氏採集、寄贈
20.11.25		アイヌ什器	358	ペラ		野沢俊次郎氏寄贈
20.11.25		アイヌ什器	359	ヲツチケ		全
23.12.8				弓	石狩上川郡	岡部方幾寄贈
23.12.8				矢	全	全
23.12.8				マキリ柄	全	全
23.12.8				糸巻	全	全
23.12.8				イクイタンキ	全	全
23.12.8				イクパシユー	全	全
23.12.8				火打袋	全	全
23.12.8				厚子前掛	全	全
26.12.20		什器		アイヌ墓標	石狩上川	札幌新戸部稲造氏寄贈（ママ）
	40.3.27	アイヌ用具	373	鋏ノ柄	樺太	
	40.3.27	アイヌ用具	374	切レ地	〃	
	40.3.27	アイヌ用具	375	機織具	〃	
	40.3.27	アイヌ用具	376	梭	〃	
	40.3.27	アイヌ用具	377	篋	〃	
	40.3.27	アイヌ用具	378	糸巻	〃	
	40.3.27	アイヌ用具	379	蓆	〃	
	40.3.27	アイヌ用具	380	エナウ	〃	
	40.3.27	アイヌ用具	381	エナウ	〃	
	40.3.27	アイヌ用具	382	エナウ	〃	

採集日、受入日の年次は明治である。「採集日記」には、スミソニアン協会に送付するために購入した樺太アイヌ資料も掲載されているが省略した。

以上のように、旧稿段階で利用できた材料からは、現在 HUNHM で管理されている明治時代収集資料の情報を検討することには限界がある。現時点における課題解決のためには「採集日記」の混乱以前の資料管理がどのようなものであり、その情報が正しくカードに引き継がれていたのか、またどのような情報が HUNHM で継承・管理されてきたのかを把握することができる材料が必要である。

新たに確認された史料について

ここで紹介する史料は、HUNHM が 2018 年に寄贈を受けた元職員（故人）の調査ノートに挟まれていた 2 冊の目録である。目録には HUNHM の旧名称である「北海道大学農学部附属博物館」の印が捺されており、退職後もアイヌ民族研究を継続していた元職員が調査の過程で利用し、返却されないままであった HUNHM 旧蔵史料とみられる。

以下、2 冊の目録の特徴について紹介した上で、その作成年代や上述した課題の解決のためにどのように利用できる可能性があるかについて述べることにしたい。

029 目録について

本目録（以下 029 目録、付録 1）は、表紙に「北海道大学農学部附属博物館」、「29」の印と「史傳部 旧土人用具類」の記載がある。内容は農商務省の野紙に「番号」、「品名」、「価額」、「採集年月日」、「採集番号」、「産地」、「原由」の項目があり、1 点ごとの資料情報が記載されている。「品名」欄には資料の和名とアイヌ名が、「原由」欄には収集者情報や購入した資料であることが記載されている。

記載情報の特徴として、「番号」欄には 1 から 359 が連番として記載されているが、1 から 274 がまとめられた後、275 から 328 が「明治十七年一月ヨリ六月迄採集高」、329 から 340 が「明治十七年七月ヨリ十二月迄採集高」、341 から 359 は説明はないもののそれぞれひとまとまりになっている。「採集年月日」は 1 の「明治十一年」から、359 の「二十年十一月廿五日」までの約 10 年間である。なお、末尾には 23 の「モツクリ竹琴」と 24 の「ドンクリ五弦琴」が再掲され「他へ贈送ニ付現在品ハ三百五拾七品」という記載があり、029 目録の運用が終了した時点においては 357 点が所蔵されていたことになる。

029 目録の作成年代は、野紙が 1884 移管目録と同じ農商務省のものであることから、HUNHM が農商務省の管理下にあった

1882年7月から1884年6月の間に利用されていたものであると推測される。これは「史傳部 旧土人用具類」という分類が開拓使時代には用いられておらず、農商務省時代から農学校時代初期の1887年ごろまで利用されていたものであること（関1991）、029目録末尾に記載のある23の「モツクリ竹琴」と24の「ドンクリ五弦琴」は1885年1月に万国発明品博覧会に出品されており（加藤2008）、この2点が目録に掲載され、かつ注記の形で出品に関する情報が記載されるためにはそれ以前までに029目録の運用が開始されていなければならないことから支持される。ただし、029目録は末尾の1887年まで同じ筆で記載されており、運用開始時期は農商務省時代であったとしても、登録作業は札幌農学校移管後まで継続している。このため、現存する029目録が書き継がれたものであるのか、いずれかの時点で清書されたものであるのかについては慎重に検討する必要がある。

029目録の運用の時期をさらに絞り込むために1884移管目録と比較してみたい。1884移管目録は（a）同一資料を複数点まとめて記載した1883年7月段階の240点、（b）1点ごとに記載された1883年2月から12月までの収集品34点、（c）1884年1月から6月までの収集品53点の計327点から成り立っている⁽¹¹⁾。1884移管目録には通し番号はあるものの（a）の部分で複数の資料が一括記載されているために029目録の資料番号とは対応せず、掲載資料の配列も異なっている。しかし、1884移管目録の（b）と（c）の部分に記載されている資料の内容とその配列は029目録の241から274、275から327までと同一である。ここから、029目録は農商務省時代のHUNHMにおいて管理されていた目録を引き継ぐものであることは明らかである。これを前提に、1884移管目録と029目録の相違点を見ると、1884移管目録では（b）の部分にあたる1883年2月から12月までの収集資料がまとめられて増加点数が記載されている⁽¹²⁾のに対し、029目録は（b）に該当する部分を区別していない。この点から推測すると、1884年6月の札幌農学校へのHUNHM移管に際して作成された1884移管目録は、その構成からみて1883年7月までの所蔵品に同年後半の収集品を記載して作成されていた1883年の活動報告のような記録に、移管までの1884年6月までの情報を書き加えたものであると考えられる。おそらく1883年後半には、1点ごとに資料番号を与えた資料台帳を作成することになっており、（b）、（c）のような形式で個別資料の登録作業を行いつつ（a）の部分も遡及して整備を行っていたと推測されるが、1884移管目録作成段階ではその遡及整備作業が完了していなかったため、1883年の活動報告に書き加える形式をとったのではないだろうか。一方、029目録は1884移管目録の（a）の部分が個別の資料目録として整備されていること、1884移管目録（1884年6月段階）の掲載資料点数が327点であるのに対し、029目録の1884年6月末の所蔵資料点数は328点であり、博物場員が採集した328「胴乱ノ類」が1884移管目録では漏れていることも、1884移管目録作成後からHUNHMの札幌農学校移管までに029目録が整備されたことをうかがわせる⁽¹³⁾。

146目録について

本目録（以下146目録、付録2）には表紙はなく、第一丁に「北海道大学農学部附属博物館」、「146」の印がある。内容は農商務省の罫紙に「類別番号」、「土人用器具名称」、「譯名（和譯を修正）」、「事由」の項目があり、1点ごとの資料情報が記載されている。「類別番号」は1から372が連番となっているが、341が重複しており、記載資料点数は373点となる。また、341から始まる末尾の二丁は様式が異なっており、029目録と同じ罫紙に価格が記載されている。

146目録は359点が掲載されている029目録と比べ14点が増加しているが、記載を照合してみると、146目録の341は340の記載がある罫紙に朱で追記された「アツトシ」と341から始まる罫紙に記載された「長靴」であるのに対し、029目録は341「長靴」であり、146目録に追記されている「アツトシ」がどのような意味を持つのか不明である。また、146目録は357「火箸」、358「樺皮柄杓」、359「全」であるのに対し、029目録では357「カツクミ 水柄杓」、358「ペラ 飯杓子」、359「ヲツチケ 盆」と異なる資料が記載されている。この他に、356は029目録及び146目録ともに「厚子衣」であるが、029目録では何らかの収集情報の記載を抹消し、「厚子衣」の紙片が名称欄に貼り付けられており、146目録341追記の「アツトシ」との混乱との関係性もうかがわせる。問題の所在で見たように、「採集日記」には1887年に礼文で小寺甲子二によって収集された357・358の資料

(11) 内容については加藤（2008）表4を参照されたい。

(12) 1884移管目録の（b）に該当する029目録の241から274の資料は1883年10月と11月の収集資料である。これまで、1884移管目録の（a）の部分が1883年7月現在、（b）の部分が1883年2月から12月までの収集品となっており、重複している点にやや疑念があった。029目録の記載から（b）の部分は1883年「8」月から12月の収集品とするべきところを書き誤ったのではないかと推測できる。ただし、029目録の収集年月日記載に基づけば1883年1月から7月までに収集された資料はなく、1884移管目録の記載のままだでも情報の重複は生じないことになる。

(13) ただし、1884目録で年次あるいは半年ごとの収集実績の記載がある分類はアイヌ民族資料のみであって、動物標本などの移管目録には1883年、1884年の増加分についての言及や1点ごとに登録・管理されていた形跡がない。「採集日記」に類別番号が採用されていることから、農商務省時代にはすべての分野で個別資料の番号管理が行われていたことは明らかであり、他の分類でも同じ様式であってもよいはずである。アイヌ民族資料と同じ「史伝部」に含まれる考古資料の目録には「明治十七（ママ）年七月現在ノ古器物」とあることから、1884移管目録が分類単位で別々に作成され、担当者による記載方法の揺らぎと考えることもできるが、今後の課題としておく。

と野沢俊次郎寄贈の 357・358・359 の情報(表 1)があり、このころまでには資料管理に混乱が生じていた。029 目録は野沢の情報に記載しているが、146 目録はいずれとも異なる資料に同じ類別番号を与えており、さらなる混乱の状況を示しているものと考えられる。

146 目録は 029 目録と異なり、採集年次や採集者の記載はなく、資料名称と「事由」欄に収集地と資料の用途などの解説があることが特徴である。また、罫紙の様式が変わる 340 までの多くの資料の記載の下部に付箋が貼り付けられ、付箋の内容とほぼ同じ記載が本紙に朱で修正として書き加えられている点や、付箋がないものもアイヌ語表記などが朱で追記、修正されている点の特徴としてあげられる。墨で記載された収集地の情報はごくわずかな違いはあるものの 029 目録の収集地と共通であるが、朱で修正された収集地情報は大きく異なっている。この 2 点の目録は HUNHM 所蔵アイヌ民族資料の収集情報を示すものと考えられることから、029 目録や 146 目録に当初記載された収集地と修正された収集地のいずれの情報が妥当であるのかは、現時点における資料利用に大きく影響する。この点に関する詳細な検討は今後の課題とせざるをえないが、現時点における見通しについて述べておく。

146 目録の 199 及び 200「ラスマ」の上部には鉛筆書きで「始メテ見タ」という記載がある。また 282「ゲーヘラ」の上部には朱で「追テ調之分」という記載がある。付箋や朱による修正が 340 までの資料に行われていることから、146 目録は 1884 年までに収集された資料に対し、何らかの情報提供者、おそらくは「ラスマ」という樺太アイヌが利用する漁具を見たことのない北海道アイヌの協力を得てその用途や名称を調査した記録であって、修正された収集地はその情報提供者が当該資料の利用されている地域として述べた情報であると捉えている。民族資料カードの収集地情報が 029 目録と合致すると判断されることから、資料の収集地は 029 目録の記載を信頼すべきであると現時点では判断しておく。

029 目録・146 目録から得られる情報と今後の課題

新たに確認された 2 冊の目録によって HUNHM 所蔵アイヌ民族資料にもたすことができる情報について整理することとした。029 目録の項目名称である「番号(146 目録は類別番号)」、「品名」、「価額」、「採集年月日」、「産地」、「原由」は、「採集日記」の項目名と共通である。また 029 目録の末尾の資料番号 357・358・359 の資料が「採集日記」の当該番号の資料と合致するところからみて、029 目録は民族資料カードによる修正を必要とした「採集日記」運用初期の資料管理目録であると位置付けられる。そして、029 目録が農商務省から札幌農学校への移管目録と類似した構成であり、1883 年 10 月に HUNHM から農商務省博物館に送付されたアイヌ民族資料が含まれていないこと、農商務省時代の資料分類である「史傳部 旧土人用具類」の目録であること、目録が農商務省の罫紙にまとめられていることからみて、1884 年初頭の農商務省時代末期に運用が開始され、1887 年ごろまで利用されていた資料管理の状況を示す目録であることは確実である。そして、開拓使時代の HUNHM における資料管理は「甚不整頓」であり、農商務省時代に農商務省博物館長の田中芳男の意見によって博物館の運営が改善された(関 1991)とされることから考えて、HUNHM において体系的にアイヌ民族資料を管理した最初の目録であると位置付けられる。この目録は 1877 年の博物館設置から 7 年が経過した時点での目録編集とはいえ、収集とほぼ同時期に記載された情報であり、その信頼性は高いものと評価できる。

この 2 冊の目録は、末尾の部分で資料管理の混乱に伴う混乱が含まれていると考えられるものの、「採集日記」運用開始までに収集管理されていた類別番号 356 までの資料の情報についてはおおむね信頼できるものと評価できる。この信頼できる情報を、目録に記載されている個別の資料番号を用いて現存資料とどのように対応させることができるか確認してみたい。

旧稿(加藤 2008)では、図 6 に示したラベル(以下ラベル 3)の裏面の番号が「採集日記」の類別番号に対応する可能性を提示した。表 2 はラベル 3 裏面に資料番号を持つ現存資料をまとめ、その資料番号に対応する 029 目録の資料情報と比較したものである。旧稿段階では「採集日記」にアイヌ民族資料番号 356 以前の資料が記載されていないため、ラベル番号の配列と 1884 移管目録の配列との類似からの推測にとどまったが、表 2 に示したように、ラベル 3 裏の番号が 029 目録の資料番号に対応することは明らかである。現存するラベル 3 の裏の多くにはラベル 2 が貼られており、民族資料カードの資料番号が記載されている(図 4)。また、図 6 に示したラベルの番号は消されている。この状況も 029 目録と「採集日記」で利用されていた資料管理が混乱し、新たな資料番号による管理が行われるようになったため、旧番号の利用を終了させたことを示している。

ラベル 3 裏の資料番号を用いて 029 目録から得ら



図 6.【10474】付属のラベル 3.(55) の記載が消されている

表 2. ラベル 3 裏数字に基づく 029 目録との資料情報比較

現存資料						029 目録記載情報				
資料番号	裏番号	資料名	ラベル 1	収集地	収集年次	番号	品名	産地	採集年月日	理由
【10808】	1	イナウ	-	石狩	11 年	1	エナヲ / 幣束	石狩国石狩郡	明治 11 年	開拓使採集
【10806】	2*	イナウ	-	石狩	11 年	2	エナヲ / 幣束	石狩国石狩郡	明治 11 年	開拓使採集
【10179】	12	ヌサ	-	千歳	15 年 10 月	12	エナヲケマ / 熊祭供幣束	千歳郡長都村	-	博物局員採集
【10179】	13	ヌサ	-	千歳	15 年 10 月	13	キケバラセ / 熊祭供幣束	千歳郡長都村	-	博物局員採集
【10179】	14	ヌサ	-	千歳	15 年 10 月	14	タクサツコロエナ ヲ / 熊祭供幣束	千歳郡長都村	-	博物局員採集
【10179】	15	ヌサ	-	千歳	15 年 10 月	15	ユツキシヤバヲニ / 熊祭供幣束	千歳郡長都村	-	博物局員採集
【10179】	17	ヌサ	-	千歳	15 年 10 月	17	イモカエナヲ / 熊祭供幣束	千歳郡長都村	-	博物局員採集
【10179】	20	ヌサ	-	千歳	15 年 10 月	20	一 / 幣束	千歳郡長都村	-	博物局員採集
【10474】	55	盃台	Takai-sara	石狩	12 年	55	タカエサラ / 盃臺	石狩国石狩郡	-	開拓使採集
【10545】	61	木皮燭	-	千歳	12 年	61	チノエダ / 樺皮蠟燭	胆振国千歳郡	-	開拓使採集
【10605】	71**	箕	Mui	石狩	12 年	71	ホンムエ / 木箕雛形	石狩郡	-	開拓使採集
【00110】	181	倉庫	-	沙流	12 年	181	ブー / 倉雛形	日高国沙流郡	-	開拓使採集
【10695】	192	銚の柄	-	■	11 年*	192	一 / 銚	樺太	-	開拓使採集
【10483】	252	杓子	Kashup	沙流	16 年 10 月 5 日	252	サケニセツブ / 酒柄杓ノ類	日高国沙流郡	明治 16 年 10 月	-
【10593】	259	盆	Otchiki	沙流	16 年 10 月 5 日	259	ヲツチケ / 木盆	日高国沙流郡	明治 16 年 10 月	-
【10600】	260	盆	Nima	沙流	16 年 10 月 5 日	260	ヲツチケ / 木盆	日高国沙流郡	明治 16 年 10 月	-
【10609】	262	盆	Ni-batchi	沙流	16 年 10 月 5 日	262	ニバツチ / 木鉢ノ類	日高国沙流郡	明治 16 年 10 月	-
【10607】	263	片口	Etunup	沙流	16 年 10 月 5 日	263	エトノブ / 木ノ片口	日高国沙流郡	明治 16 年 10 月	-
【10472】	267	柄杓	-	千歳	16 年 10 月 5 日	267	サケビシヤク / 酒柄杓	胆振国千歳郡	明治 16 年 10 月	-
【00164】	268	ヘラ	-	千歳	16 年 10 月 5 日	268	サケビシヤク / 酒柄杓	胆振国千歳郡	明治 16 年 10 月	-
【10594】	274	盆	Nima	千歳	16 年 10 月 5 日	274	ニマ / 木皿	胆振国千歳郡	明治 16 年 10 月	-
【10805】	287	タラ	-	沙流	17 年 11 月 25 日	287	ボンタラ / 子背負縄	日高国沙流郡	明治 17 年 1 月 25 日	場員採集
【10487】	288	杓子	Shito kala lela	沙流	17 年 1 月 25 日	288	シトベラ / 籠	日高国沙流郡	明治 17 年 1 月 25 日	場員採集
【10499】	325	手拭掛	Aeokbe	新冠	17 年 6 月 10 日	325	一 / 手拭掛け	日高国新冠	明治 17 年 6 月 10 日	森源三出品
【10013】	326	脚付行器	-	札幌	17 年 6 月 10 日	326	ケモンベ / 行器 (ホカイ)	日高国新冠	明治 17 年 6 月 10 日	札幌岡田佐助ヨリ 購求
【00019】	59	木綿衣	-	-	-	59	ホウケンベラ / 暖簾	日高国沙流郡	-	開拓使採集
	■ 9	-	-	千歳	■	329	カハリミ / 木綿縫取衣	胆振国千歳郡	明治 17 年 8 月 21 日	土人ヨリ購求
【00194】	337***	柄杓	Tat-pishaku	千歳	17 年 8 月 23 日	337	カシユツブ / 杓子	胆振国千歳郡	明治 17 年 8 月 21 日	土人ヨリ購求
【38513】	357	鞘	-	礼文郡 香深村	20 年 8 月 16 日	357	カツクミ / 水柄杓	-	明治 20 年 11 月 25 日	野沢俊次郎寄贈
【00195】	359	柄杓	-	千歳	-	359	ヲツチケ / 盆	-	明治 20 年 11 月 25 日	野沢俊次郎寄贈

* 加藤 (2008) で「20」と誤読。** 加藤 (2008) で「11」と誤読。*** 「335」を修正してある。

れる情報について整理してみたい。まず、多くの資料において、収集者や収集経緯の情報を追加することができる。特に脚付行器【10013】⁽¹⁴⁾には「札幌」という収集情報が付属しているが、029 目録によって新冠の資料を札幌の岡田佐助から購入したものであることが確認される。また、ヌサ【10179】を構成するイナウのうち 6 本は「千歳」収集とラベル 3 に記載されているが、これはより範囲を限定した「千歳郡長都村」に情報を補記することができる⁽¹⁵⁾。ただし、029 目録による情報追加については留意すべき点もある。表 3 からわかるように、ラベル 3 には収集年月日の記載があるが 029 目録には記載がない部分がある。これは、1884 移管目録と 029 目録との比較で推測したように、1883 年以前の収集資料については遡及して整理登録されたため、ラベル 3 収集年月日は 029 目録以前に利用されていた何らかの収集記録が転記されたが、029 目録への記載にあたってはそれらの情報が漏れたのではないだろうか。ここから、029 目録の前半部分は二次的な目録であり、誤りや漏れといった限界があることは念頭に置いておく必要がある。ただし、ラベル 3 は 029 目録運用に合わせて利用されたものであり、後世の追記ではないことから、

(14) 本稿において【 】で括った数字は HUNHM における現在の資料番号である。

(15) この資料は長都村で収集した熊送り資料であることから、課題となっていた 1884 年の札幌農学校年報に記載された収集資料との関連性がうかがわれるものの、収集時期が異なるため年報記載の根拠にはならない。ただし、後掲表 4 に示したように、現在「1884 年、千歳」という情報のみを持つ盆【00159】は 029 目録によれば「1884 年 1 月 25 日」に千歳で収集された資料である。熊送り資料ではないものの、1884 年 1 月に千歳で収集活動が行われていた点については年報の記載を信頼することができる。

ラベル3の情報とともに用いることで信頼できる情報に近づけることは可能だろう。

この点を踏まえ、029 目録を用いて得られる個別の資料の情報について触れてゆきたい。

ヌサ【10179】は12点のイナウからなる祭壇である。ヌサを構成するイナウのうち、6点のイナウに「十五年十月、千歳産」のラベル3が付属している。ラベル3が付属しない1点のイナウに付属するヒグマ頭骨には「1909年、平岸」、もう1点には「1900年、豊平」の情報が付属していることから、このヌサは1910年の展示室整備の際に異なる収集経緯のイナウを組み合わせで作成されたものと沖野（2000）は判断した。そして、ラベル3が付属するイナウのうち4点に付属するラベル1及び付箋に記載されているアイヌ語表記が1884移管目録の件番123「エナウケマ」、120「キケバラセ」、121「タクサツコロエナウ」、122「ユツキシヤバヲニ」に合致することから、これらが1884移管目録記載のイナウに該当するものと評価した。これまで筆者は沖野（2000）が推測したようにヌサ【10179】が後世に組み合わせられた資料であることは認めつつ、1884移管目録には現存資料と照合するための資料番号や収集地情報、収集年月日の記載がないこと、また現行資料台帳の収集情報の信頼性の検討が必要であると考えていたため、沖野（1999, 2000）が行った1884移管目録との照合はあくまで参考程度にとどめるべきと判断していた。ここで改めてヌサ【10179】に付属するラベル3の記載情報を確認してみたい。

図7にヌサ【10179】の個々のイナウを指し示す記号を付記し、表3にそれぞれに付属するラベル3裏面の数字、他に付属するラベルや付箋に記載されているアイヌ語名称をまとめた。ラベル3裏面の数字とアイヌ語名称が029目録の該当資料番号の記載と完全に合致することが理解できるだろう。沖野（2000）はアイヌ語名称の合致から、少なくともイナウ（b）、（d）、（e）、（f）の4点を1884移管目録掲載のイナウに該当すると考えていたが、ラベル3裏面の数字からイナウ（a）はもともとアイヌ語名称が付属しておらず、1884移管目録の件番127の「無名」イナウに、イナウ（i）は現在アイヌ語名称を示すラベルや付箋は付属していないが、029目録によって「イモカエナウ」という名称が付属し、1884移管目録の件番124に該当することが明らかになる。ここから、1884移管目録と資料付属のラベル、付箋のみからは十分な照合には至らない部分があるものの、沖野（2000）の照合自体に問題がないことが確認された⁽¹⁶⁾。

このほか、鉾の柄【10695】に付属するラベル3は劣化が著しく、収集地記載を判読することができないが、裏面の「192」を信頼するならば、029目録の情報に従い樺太アイヌの資料であることを補記できる。また、木綿衣【00019】は付属ラベルからは収集地情報が得られず、現行資料台帳の「千歳、1884年」という資料情報に従って管理されているが、着物の様式から千歳という収集地情報に誤りがあるのではないかという指摘を利用者から受けたことがある。この資料には現在ラベル3が2枚付属し、1枚は表面の収集年月日と収集地記載がなく、裏面に「59」の資料番号がある。もう1枚は劣化が進んでいるが表面には「千■（千歳力）」、裏面に「■■■9（329力）」とある。「59」は029目録では「喰匙」に該当し、1枚目のラベル3はおそらく後世に誤って付与されたものと考えられる。一方2枚目のラベル3の記載はほとんど判読できないものの、029目録の329には「木綿縫取衣（カハリミ）、胆振国千歳郡、明治17年8月21（あるいは23）日」とあり、現行資料台帳の情報と合致する。また、029目録には329以外に木綿衣に該当する資料記載はなく、同時にラベル3が付属する木綿衣は【00019】以外に確認できないため、これに該当するものとみてよいだろう。ここから、少なくとも木綿衣【00019】は収集年次である1884年前後においても千歳で収集されたという情報が付属しており、現行台帳の情報そのものには誤りがないことが確認された。着物の様式による収集地に対する疑問については、別の地域で制作された木綿衣が千歳で収集された、などの別の観点からの考察が求められることになる。

ここまで示したように029目録は、明治初期に収集されたHUNHM所蔵アイヌ民族資料に現在付属していない収集情報を補

表3. ヌサ【10179】を構成するイナウに付属する情報

イナウ記号	ラベル3 裏面番号	付箋記載	ラベル1記載	備考
(a)	20	—	—	
(b)	13	キケバラセ	kikeparase inao or keina-ush inao	
(c)	—	—	—	シール状のラベル3貼付、記載なし
(d)	15	ユツクメウエン Okku me no ni / ケイトムシエナウ	Yuk-shipa o ni	
(e)	12	エナウケマ	—	
(f)	14	—	タクサコロエナウ	
(g)	—	—	—	ヒグマ頭骨に「明治42年、平岸」
(h)	—	—	—	明治末に利用されていたラベル付属、資料に「明治33年、豊平」
(i)	17	—	—	
(j)	—	—	hepere kot ulai-ni or Takusa kot urai-ni	
(k)	—	—	—	
(l)	—	—	—	

(16) ただし、現行資料台帳の情報と1884移管目録のみの照合が常に妥当であるとはいえない。沖野（1999）は「樺太、1884年6月19日」の収集情報があるかんじき【10498】を1884移管目録の件番202に対応させた。しかし、後述するように件番202に対応する029目録の313「テシマ カンジキ」は「1884年4月19日、石狩郡、場員採集」であり、収集情報は合致しない。現行資料台帳の情報を単純に1884移管目録に当てはめた沖野（1999, 2000）の照合については精査が必要である。



図7. ヌサ【10179】を構成するイナウ

記できる可能性を秘めている。しかし、信頼できる形で補記することができるものは、ラベル3が資料に付属し、かつ裏面の番号を判読できる場合のみであって、現状では029目録に含まれる資料の一割にも満たない。このようなラベルの欠落による情報の復元の困難さは、民族資料カードと同様の限界である。ただし、今回元職員の遺品として受け入れた資料群の中に HUNHM 所蔵資料から取り外されたラベル、剥がされたラベルが大量に含まれていた。元職員の遺品資料の中には、数多くの資料写真が含まれており、それらの写真には資料ラベルが写っていないことから、おそらくは資料写真の撮影のために取り外したものと考えられる。このラベル群が持つ価値について検討してみたい。

資料から取り外され、脱落したラベルは資料に付属するものではない以上、その情報を安易に情報復元に用いることは避ける

べきである。ただし、これまでに実施したラベルの予備調査から、元職員はラベル3裏面の数字が029目録の資料番号に対応していることに気づいていたようであり、取り外されたラベル3裏面に貼り付けられているラベル2が剥がされている事例が多くみられる。また、元職員の調査ノートには資料番号や資料名とともに、現在付属していないラベルの情報が記載され、029目録の情報を補記している事例(図8)、そして一部のラベルには現在の資料台帳の資料番号に対応する可能性がある番号が記載されている場合がある。

図9は取り外されたラベルの一例である。「67号、Shitu」の記載があるラベル1、表面に「十二年月日、石狩産」の記載があり、その裏面はラベル2が剥がされ「(■41)」の記載が確認できるラベル3、1910年ごろに利用されていたと考えられる「二十九号、葡萄蔓、アイヌ名しつくり、石狩石狩」の記載がある展示ラベルと荷札ラベルの4枚がまとめられており、それぞれに「10457」の番号記載がある。これに対応する現存資料は草履【10457】になる。資料には資料番号が記載されたラベルのみが付属し、資料収集情報は現行資料台帳の「1879(明治12)年、石狩」に基づいている。情報の合致から見て、草履【10457】が現行資料台帳に登録された時点では図9に示したラベルが付属していたと推測されるだけでなく、この草履【10457】が029目録のおそらく「141」に該当し、開拓使の収集資料であること、民族資料カードの「67」号資料に該当すること⁽¹⁷⁾、1910年に刊行されたHUNHMの展示案内書である「札幌博物館案内」に掲載されている「二十九号、葡萄蔓、シツケリ」に該当(加藤2004, 2008)し、過去に展示されていた資料であることなど、資料が持つ歴史情報を数多く復元できることになる。

ただし、すべてのラベルに資料番号が記載されているわけではない。また、ここまでの予備調査において、アイヌ民族資料に付属していたと考えられるラベルに記載されている資料番号や元職員の資料調査ノートの資料番号が現在考古資料に利用されている事例があること、当該資料番号が民族資料に該当した場合であっても別の種類の資料である事例などが確認されており、元職員が利用していた資料番号と現行資料台帳の番号とが必ずしも同一のものではないことが示唆されている。元職員は現行資料台帳の運用直後に着任していることから現行資料台帳を利用していたはずであり、なぜこのような混乱が生じているのかは現時点では明らかにならない。この問題については、別稿において詳細に検討することとしたい。

必ずしもラベルに資料番号が記載されていないこと、記載されている場合であってもその信頼性に疑念があることから、現時点において取り外されたラベルを現存資料に戻すことは困難であり、また安易に戻すべきではない。しかし、取り外されたラベ

No.						
34	9984	石狩 産	309	80	赤紐 309号 石狩 Shikima-shup	mitapumpe
35	9937				赤紐 3354号	
36	9947	赤紐のみ、ラベルなし				sak. Mita.
37	9990	石狩 産	311	82	赤紐 311号 Yayan kina-shup	
38	9991					
39	9971					
40	9938	石狩 産	346	81		
41	9989	赤紐 309号			和紙:(アイヌ)が用ユル最古物「スゲ」 ニテ縫ル。39年 宮部金吾	
42	9946	石狩 産	105	351	87 赤紐のみ、ラベルなし	
43	9943	赤紐のみ、ラベルなし				tapank itese
44	9978	石狩 産	359	81		
45	9988	石狩 産	358	97		
46						

図8. 元職員の調査ノート。ラベル3表裏の記載やラベル1と2の情報が記載されている

(17) ただし、民族資料カードの「67」は「刑杖 シュト」である。ラベル1裏面の「Shitu」が「しつくり」に類似しているため、いずれかの段階で誤って草履【10457】に付属した可能性がある。対応する可能性のある民族資料カード掲載資料は「111」の「シツケリ 草靴 石狩」である。



図9. 草履【10457】から取り外された可能性のあるラベル

ルが現行資料台帳運用後に着任した元職員の手元に保存されていたことから、少なくとも資料台帳の運用が開始された1961年ごろまでは収集情報が記載されたラベルが資料に付属しており、資料台帳の収集情報は明治期から引き継がれたラベルの情報に基づいていると推測される。現存資料には029目録の資料番号に対応する番号記載はほとんど残されていない（表2）が、ラベルに記載されていた収集情報が引き継がれていたならば、現行資料台帳の情報は029目録と合致するはずである。現行資料台帳の収集情報の正確さを検討するために、表4として1884年に収集された029目録の275から340の資料とそれらに対応する可能性のある情報を持つ現存資料を対比させた。

付属ラベル欄に示したように、ラベル1、2、3が付属していない資料や収集情報が資料台帳にのみ記載され、資料そのものに付属していないものであっても、029目録に対応する資料を見出せることから、現行資料台帳の情報はある程度正確に引き継がれていると評価できる。ただし、いくつかの問題点も確認される。029目録の275から286の収集日「明治十七年一月廿七日」は「廿五日」の誤記であると推測され、029目録の正確性にやや問題があると認められる。また、かんじき【10498】は現行資料台帳では「1884（明治17）年6月19日、樺太」収集となっている。このかんじきには明治期収集であることを示すラベルは全く付属していないが、HUNHMには他に明治期収集とされるかんじき資料は確認されないこと、年次と「19日」という採集日から029目録の313「テシマ/カンジキ」に該当する可能性がある。しかし、収集地や収集月の情報が異なるため、029目録の記載に問題があるのか、現行資料台帳に至るまでの過程で何らかの情報混乱が生じ、誤って「6月、樺太」という情報が記載されたのか、あるいはそもそもかんじき【10498】と029目録の313は対応しないのか、判断に悩むところである。

このほかにもラベルが付属していないことによる情報の欠落や疑問点がある。図10は取り外されたラベル群に含まれていたラベルであるが、ラベル3に「116」の追記がある。これは現在の織具イシトムニ【00116】「1884（明治17）年、日高沙流」に付属していた可能性が高い。このラベル3には「十七年一月廿五日」の収集日と裏面の「279」の029目録に対応する番号が記載されている。現行資料台帳への登録段階でラベル3が付属していたならば、「1月25日」という採集日情報が登録されているおかしくないが、年次のみが登録されている理由は判然としない。この場合、ラベルが取り外されていなければ台帳情報を補うことができたはずであるが、現時点では参考情報とせざるを得ない。

表 4. 029 目録掲載の 1884 年収集資料に対応する現存資料

番号	品名	029 目録		現行資料台帳				ラベル・情報状況		
		収集日	収集地	資料番号	資料名	収集日	収集地	ラベル 1・2	ラベル 3	付属情報
275	ニマ / 木皿	明治十七年一月廿七日	胆振国千歳郡	【00159】	盆 / ニマ	明治 17 年	千歳	無	無	有
276	エムサアチ / 刀ノ帯取	明治十七年一月廿七日	日高国沙流郡	【09645】	刀帯	明治 17 年 01 月 25 日	沙流	有	有	有
277	エムサアチ / 刀ノ帯取	明治十七年一月廿七日	日高国沙流郡	【11018】	刀帯	明治 17 年 01 月 25 日	沙流	無	無	有
278	ヲサ / 箆	明治十七年一月廿七日	日高国沙流郡	【10555】	織具 / ウオサ	明治 17 年 01 月 25 日	沙流	無	無	無
279	イシモトフ / 織具腰板	明治十七年一月廿七日	日高国沙流郡	【00116】	織具 / イシトムニ	明治 17 年	日高沙流	無	無	無
280	カマカツプ / 機織具	明治十七年一月廿七日	日高国沙流郡							
281	ヘカウニ / 機綾取	明治十七年一月廿七日	日高国沙流郡	【00120】	綾取具 / ペカウニ、Pekaonit	明治 17 年	日高沙流	無	無	無
282	クーベラ / 杆ノ一種	明治十七年一月廿七日	日高国沙流郡	【00117】	織具 / アツシペラ、Attushpera	明治 17 年	日高沙流	無	無	無
283	グーチヨフ / 帯織杆	明治十七年一月廿七日	日高国沙流郡	【10578】	オビオサ / グウチョック	明治 17 年 01 月 25 日	沙流	無	無	無
284	リクトンベ / 子供首筋	明治十七年一月廿七日	日高国沙流郡							
285	リクトンベ / 子供首筋	明治十七年一月廿七日	日高国沙流郡							
286	シヤバアンベ / 礼帽ノ一種	明治十七年一月廿七日	日高国沙流郡	【09597】	アイヌ冠 / Ekash-pa unbe or Inao-r	明治 17 年 01 月 25 日	沙流	無	無	有
287	ボンタラ / 子背負籠	明治十七年一月廿五日	日高国沙流郡	【10805】	タラ	明治 17 年 01 月 25 日	沙流	有	有	有
288	シトベラ / 籠	明治十七年一月廿五日	日高国沙流郡							
289	タン子イコロ / 太刀雛形	明治十七年一月廿五日	日高国沙流郡							
290	エムシイコロ / 刀ノ雛形	明治十七年一月廿五日	日高国沙流郡							
291	エムシイコロ / 刀ノ雛形	明治十七年一月廿五日	日高国沙流郡							
292	イカユビコロ / 矢筒雛形	明治十七年一月廿五日	日高国沙流郡	【10061】	矢筒 / ボンイカユップ	明治 17 年 01 月	沙流	無	無	有
293	イカユビコロ / 矢筒雛形	明治十七年一月廿五日	日高国沙流郡							
294	ヲサ / 箆	明治十七年一月廿五日	日高国沙流郡							
295	カリヒンキ / キナ袋	明治十七年一月廿五日	日高国沙流郡	【32985】	編袋	明治 17 年 01 月 25 日	沙流	有	有	有
296	アブンカ / 綿糸	明治十七年一月廿五日	日高国沙流郡	【00115】	織具 / アフンカニツ、杆	明治 17 年	日高沙流	無	無	無
297	リクトンベ形 / 首筋ノ鑄形	明治十七年一月廿五日	日高国沙流郡	【10621】	首飾鑄形	明治 17 年 01 月 25 日	沙流	無	無	無
298	リクトンベ形 / 首筋ノ鑄形	明治十七年一月廿五日	日高国沙流郡	【10622】	首飾鑄形	明治 17 年 01 月 25 日	沙流	無	無	無
299	イチヤビバ / 穂摘具	明治十七年一月廿五日	日高国沙流郡	【09630】	貝包丁 / イチヤビヤ (イチヤビバ)	明治 17 年 01 月 25 日	沙流	無	無	有
300	キナバツバ / 塩入	明治十七年一月廿五日	日高国沙流郡							
301	ヌイトサエツプ / 糸巻	明治十七年一月廿五日	日高国沙流郡							
302	ヌイトサエツプ / 糸巻	明治十七年一月廿五日	日高国沙流郡							
303	シンタ / 小児釣床	明治十七年一月廿五日	日高国沙流郡	【00181】	小児釣床 / シンタ	明治 17 年 01 月 15 日	沙流	有	有	有
304	カハチリアツプ / 鷺釣	明治十七年四月十九日	胆振国千歳郡	【09727】	鷺釣 / カバチリアツプ	明治 17 年 04 月 19 日	千歳	無	有	有
305	タカエシヤラ / 盃臺	明治十七年四月十九日	胆振国千歳郡							
306	カツクム / 樺皮手桶	明治十七年四月十九日	胆振国千歳郡							
307	カツクム / 樺皮手桶	明治十七年四月十九日	胆振国千歳郡							
308	カツクム / 樺皮柄杓ノ類	明治十七年四月十九日	石狩郡							
309	ヒシヤツコ / 樺皮柄杓	明治十七年四月十九日	千歳郡							
310	ヒシヤツコ / 樺皮柄杓	明治十七年四月十九日	千歳郡							
311	チタルベエツプ / 背負籠	明治十七年四月十九日	千歳郡							
312	イヲマチタルベ / 胴乱ノ類	明治十七年四月十九日	千歳郡							
313	テシマ / カンジキ	明治十七年四月十九日	石狩郡	【10498】	かんじき / テシマ	明治 17 年 06 月 19 日	樺太	無	無	無
314	キナカロフ / 脇携胴乱	明治十七年四月十九日	胆振国千歳郡	【10443】	編袋 / カロップ	明治 17 年 04 月 19 日	千歳	有	無	無

029 目録				現行資料台帳				ラベル・情報状況		
番号	品名	収集日	収集地	資料番号	資料名	収集日	収集地	ラベル 1・2	ラベル 3	付属情報
315	エテセカ / キナ編具	明治十七年四月十九日	胆振国千歳郡	【00107】	ござ織機	明治 17 年 04 月 19 日	千歳	有	有	有
316	カニチ / 糸縫具	明治十七年四月十九日	胆振国千歳郡	【10626】 【09720】	丸木舟 捕鳥器 / カシ ンタ カシン ク	明治 17 年 04 月 19 日	千歳	無	無	有
317	チツプ / 船雛形	明治十七年四月十九日	胆振国千歳郡			明治 17 年 04 月 19 日	千歳	無	有	有
318	カシンタ / 鴨掛具	明治十七年四月十九日	胆振国千歳郡			明治 17 年 04 月 19 日	千歳	無	有	有
319	ピウチ / 火燵具	明治十七年四月十九日	胆振国千歳郡			明治 17 年 04 月 19 日	千歳	有	有	有
320	イタヘニ / 切臺	明治十七年四月十九日	胆振国千歳郡	【09866】	枕 / チニヌイ ベ セニヌイ ベ エニヌイ ベ アイエニ ヌイベ	明治 17 年 04 月 19 日	千歳	有	有	有
321	セニヌイベ / 枕	明治十七年四月十九日	胆振国千歳郡			明治 17 年 04 月 19 日	千歳	有	有	有
322	ヤーラ / 俎	明治十七年四月十九日	胆振国千歳郡			明治 17 年 04 月 19 日	千歳	無	無	無
323	シュフチ / 自在釣	明治十七年四月十九日	胆振国千歳郡			明治 17 年 04 月 19 日	千歳	無	無	無
324	シュツテン / 簾 (スタレ)	明治十七年六月十日	胆振国千歳郡	【10499】 【10013】	手拭掛 脚付行器 / シントコ	明治 17 年 06 月 10 日	日高新冠	有	有	有
325	手拭掛け	明治十七年六月十日	日高国新冠			明治 17 年 06 月 10 日	日高新冠	有	有	有
326	ケモンベ / 行器 (ホカイ)	明治十七年六月十日	日高国新冠			明治 17 年 06 月 10 日	札幌	無	有	有
327	ハッチ / 行器 (ホカイ)	明治十七年六月十日	日高国新冠			明治 17 年 06 月 10 日	札幌	無	有	有
328	イフマチタルベ / 胴乱ノ類	明治十七年六月十日	日高国新冠	【00019】	木綿衣	明治 17 年	千歳	無	有	無
329	カハリミ / 木綿縫取衣	明治十七年八月廿一日	胆振国千歳郡			明治 17 年	千歳	無	有	無
330	ホウシ / 脚絆	明治十七年八月廿一日	胆振国千歳郡			明治 17 年 08 月 22 日	千歳	無	無	無
331	テクンベ / 手袋	明治十七年八月廿一日	胆振国千歳郡			明治 17 年 08 月 22 日	千歳	無	無	有
332	モレリ / 糸縄ノ類	明治十七年八月廿一日	胆振国千歳郡	【10237】	葬儀用縄	明治 17 年 08 月 22 日	千歳	無	無	有
333	ウトキアツ / 糸縄ノ類	明治十七年八月廿一日	胆振国千歳郡	【10452】	埋葬縄 / ウト キアツ	明治 17 年 08 月 22 日	千歳	無	無	無
334	ヤリシユ / 木皮ノ鍋	明治十七年八月廿一日	胆振国千歳郡	【10589】	木皮鍋 / チク ニカップ	明治 17 年 08 月 22 日	千歳	有	無	無
335	ヤリシユ / 木皮ノ鍋	明治十七年八月廿一日	胆振国千歳郡			明治 17 年 08 月 22 日	千歳	有	無	無
336	カシユツツ / 杓子	明治十七年八月廿一日	胆振国千歳郡			明治 17 年 08 月 23 日	千歳	有	有	有
337	カシユツツ / 杓子	明治十七年八月廿一日	胆振国千歳郡			明治 17 年 08 月 23 日	千歳	有	有	有
338	ヤツチツツ / 木皮船雛形	明治十七年八月廿一日	胆振国千歳郡	【09633】	木皮舟 / モヤ ラチツツ	明治 17 年 08 月 22 日	千歳	無	無	無
339	ピウチ / 火打入	-	天塩	【33362】	火打袋	明治 17 年	天塩	無	無	無
340	メノコノターク / 女子帯	-	樺太			明治 17 年	天塩	無	無	無
						明治 17 年	日高沙流	無	無	無
						明治 17 年	日高沙流	無	無	無
				【00119】	織具 / イツマ ムニ Itumam- ni	明治 17 年	日高沙流	無	無	無
				【00121】	織具	明治 17 年	日高沙流	無	無	無
				【00122】	織具 / ウオサ、 Wosa	明治 17 年	日高沙流	無	無	無
				【10490】	杓子 (柄杓)	明治 17 年	千歳	有	有	有
				【00195】	柄杓	明治 17 年	千歳	有	有	無

ラベル 1・2 欄は資料にラベル 1 あるいはラベル 2 が付属しているか否かを示す。ラベル 3 欄は資料にラベル 3 が付属しているか否かを示す。付属情報欄は、資料に何らかの形で収集情報が付属しているか否かを示し、「無」の場合は資料台帳にのみ収集情報が記載されていることを意味する。

末尾の 5 点のうち【00195】を除く 4 点は資料台帳に 1884 年収集の情報があるが、029 目録に対応する資料を見出せない（本文参照）。【00195】については【10490】との関連がうかがわれるため掲載した。

また、表 4 下部には現行資料台帳に 1884 年収集という情報があるものの 029 目録の記載に対応させることができない資料を示している。このうち織具箴【00122】は 029 目録 294 の「ヲサ、箴、明治 17 年 1 月 25 日、日高国沙流郡」に該当する可能性がある。しかし、取り外されたラベルの中に図 11 のラベル 3 があり、裏面に「294」の番号がある。このラベルには「10557」の番号記載があり、織具箴【10557】に付属していたものである可能性が高い。織具箴【10557】には現在ラベルが付属せず、資料台帳の「沙流」という収集地情報のみで収集年次は不明である。このラベルが【10557】に付属していたとするならば、「1884 年 1 月 25 日」収集という情報を追記できることになるが、一方 029 目録には織具箴【00122】に対応する記載がないことになる。その他の織具【00119】、【00121】も 029 目録に対応する記載は見出せず、現行資料台帳に問題があるのか、一揃いの織具が登録されていたもののちに分割されてしまったのか、検討を要する点である。

柄杓【10490】と柄杓【00195】には共にラベル 3 が付属し、裏面にはそれぞれ「361」と「359」の記載がある。柄杓【10490】は資料台帳上「1884 年」収集となっており、表 4 に示した 029 目録掲載資料のいずれかに該当するはずである。可能性としては

029 目録 309、310 の「樺皮柄杓、明治 17 年 4 月 19 日、千歳郡」が想定される。しかし、柄杓【10490】のラベル 3 は判読が難しくなっているものの収集日欄に「廿」が確認できることから、収集情報は合致しない。また、ラベル 3 裏面の「361」と「359」は 146 目録の当該番号に該当し、資料管理に混乱が生じていた 1887 年ごろに用いられていた番号である。現行資料台帳の「1884 年」に誤りがあるのか、1884 年ごろから混乱が生じ始め、029 目録に「309」、「310」の番号で登録したにもかかわらず、ラベルへの番号記載が行われず、未登録資料として後日「359」や「361」として番号が付与されていたのか、様々な可能性が考えられる。

ここまで確認してきたように、現行資料台帳の情報は、過去に付属していたラベル 3 などの情報が転記されていると判断され、ある程度信頼できると評価できるが、情報の欠落や疑問点も存在する。029 目録に記載されている資料名や収集情報と照合しつつ、その信頼性を確認したり、情報を補いながら利用することが求められる。一方、029 目録にも情報の欠落や誤りがあり、また資料管理の混乱も少なからず目録の記載に影響しているものと予想されるため、信頼性の検証や情報の追記も慎重に実施する必要がある。付属していた資料に戻すことのできないラベルの取り外し処理によって、現行資料台帳の情報の精査や 029 目録の検討が困難な状況が生じており、取り外されたラベルの早急な再検討が必要である。

おわりに

029 目録と 146 目録が新たに確認されたことで、HUNHM における 1887 年ごろまでの個別の資料情報が明らかになり、現存資料の情報の信頼性検証、欠落した情報の復元をするための材料として利用できる可能性が生まれた。また、HUNHM 所蔵アイヌ民族資料は明治期収集資料だけでなく、名取武光が中心となって実施された 1930 年代以降（昭和前期）の収集資料も大きな核になっている。これまで現行資料台帳に収集情報がなく、明治期に利用されていたラベルも付属しない資料については、明治期収集資料であるのか昭和期収集資料であるのかすら判明しない状況にあったが、目録によって 1887 年までの所蔵資料の全体像が明らかになったことで、目録掲載資料に該当しない種類の資料が間接的に明治期収集資料ではないこと、例えば 029 目録において木綿衣は 329 のみであり、これは木綿衣【00019】に該当するものと考えられることから、他の木綿衣資料は明治期収集資料とは考えられない、という整理も可能になるだろう。

ただし、本稿で示したようにこれまでの課題の一部が残されているだけでなく、146 目録記載の情報源や 029 目録と 146 目録の情報の齟齬、取り外されたラベルの取り扱いや元職員が利用していた資料番号などの新たな課題も生まれた。一方、この 2 冊の目録は HUNHM 所蔵資料の情報としてだけでなく、1887 年ごろの民具のアイヌ語名称や 146 目録に記載されている利用方法や利用地域、明治期に収集することができたアイヌ資料の特徴など、多様な観点からのアイヌ文化研究の情報が得られる材料として活用できる可能性も秘めている。2 冊の目録の情報が共有されることで、アイヌ文化研究の進展に寄与することにつながると考えているため、多くの課題を残した状態ではあるものの発表することとした。多くの研究者に 2 冊の目録が有効活用されることを願っている。

引用文献

- 加藤 克 . 2002. 史料紹介『札幌農学校所属博物館標本採集日記』(1) . 北大植物園研究紀要 , 2:69-84
- 加藤 克 . 2003. 史料紹介『札幌農学校所属博物館標本採集日記』(2) . 北大植物園研究紀要 , 3:63-80
- 加藤 克 . 2004. 札幌農学校所属博物館のアイヌ民族資料 . 北大植物園研究紀要 , 4:1-54
- 加藤 克 . 2006. 史料紹介『札幌農学校所属博物館標本採集日記』(3) . 北大植物園研究紀要 , 6:37-57
- 加藤 克 . 2007. 史料紹介『札幌農学校所属博物館標本採集日記』(4) . 北大植物園研究紀要 , 7:35-55
- 加藤 克 . 2008. 北海道大学植物園所蔵アイヌ民族資料について : 歴史的背景を中心に . 北大植物園研究紀要 , 8:35-91
- 加藤 克 . 2011a. 札幌農学校所属博物館の利尻礼文調査資料について . 利尻研究 , 30:7-30
- 加藤 克 . 2011b. 史料紹介『札幌農学校所属博物館標本採集日記』(5) . 北大植物園研究紀要 , 11:25-47
- 加藤 克 . 2012. 標本ラベルからみた樺太動物調査鳥類標本について . 北大植物園研究紀要 , 12:91-114
- 加藤 克・市川 秀雄・高谷 文仁 . 2009. 札幌農学校所属博物館における鳥類標本管理史 (1) : 東京仮博物館から札幌農学校所属博物館初期まで . 北大植物園研究紀要 , 9:29-94
- 加藤 克・市川 秀雄・高谷 文仁 . 2012. 札幌農学校所属博物館における鳥類標本管理史 (3) : 大正～昭和期の博物館 . 北大植物園研究紀要 , 12:1-84
- 沖野 慎二 . 1999. 北海道大学農学部博物館のアイヌ民族資料 (上) . 北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要 , 5:1-19
- 沖野 慎二 . 2000. 北海道大学農学部博物館のアイヌ民族資料 (中) . 北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要 , 6:1-18
- 関 秀志 . 1991. 明治期における北海道の博物館 (2) . 北海道開拓記念館調査報告 , 30:91-118



図 10.「116」の資料番号が記載された取り外しラベル

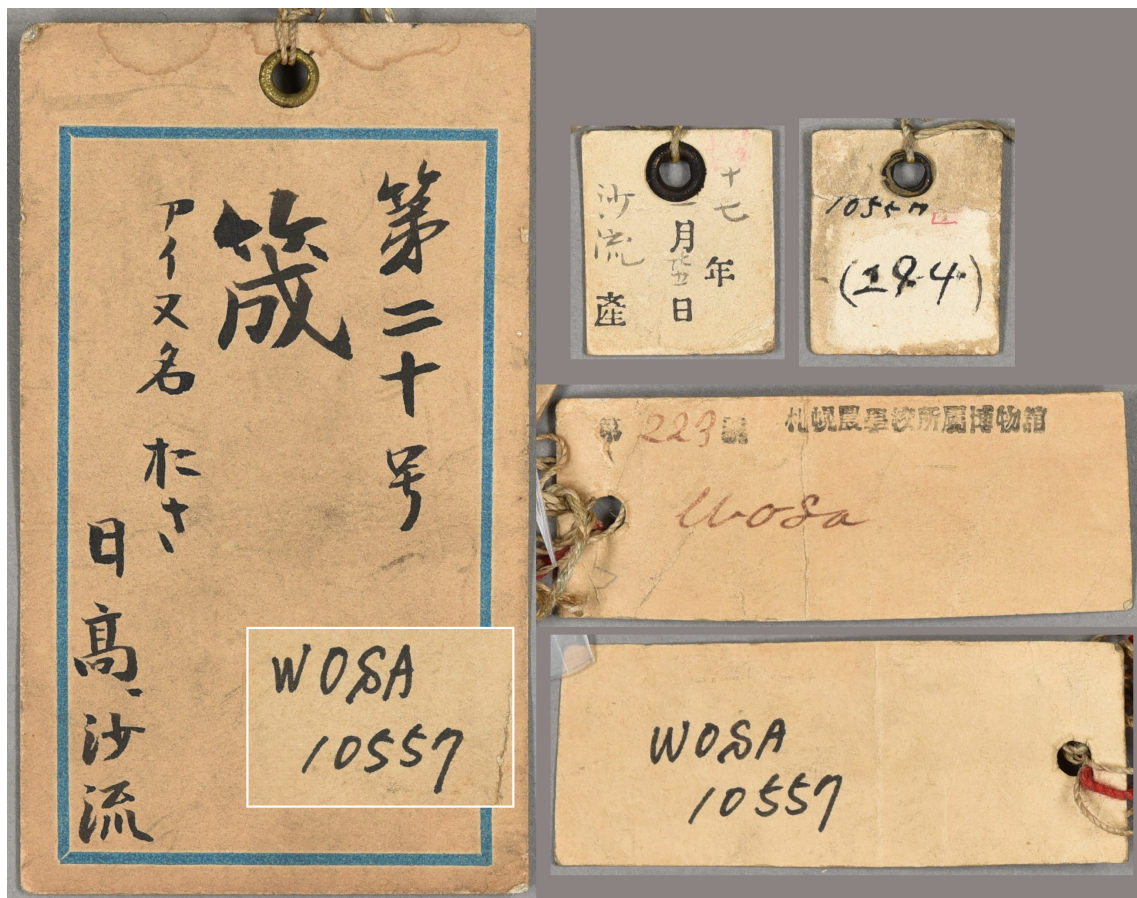
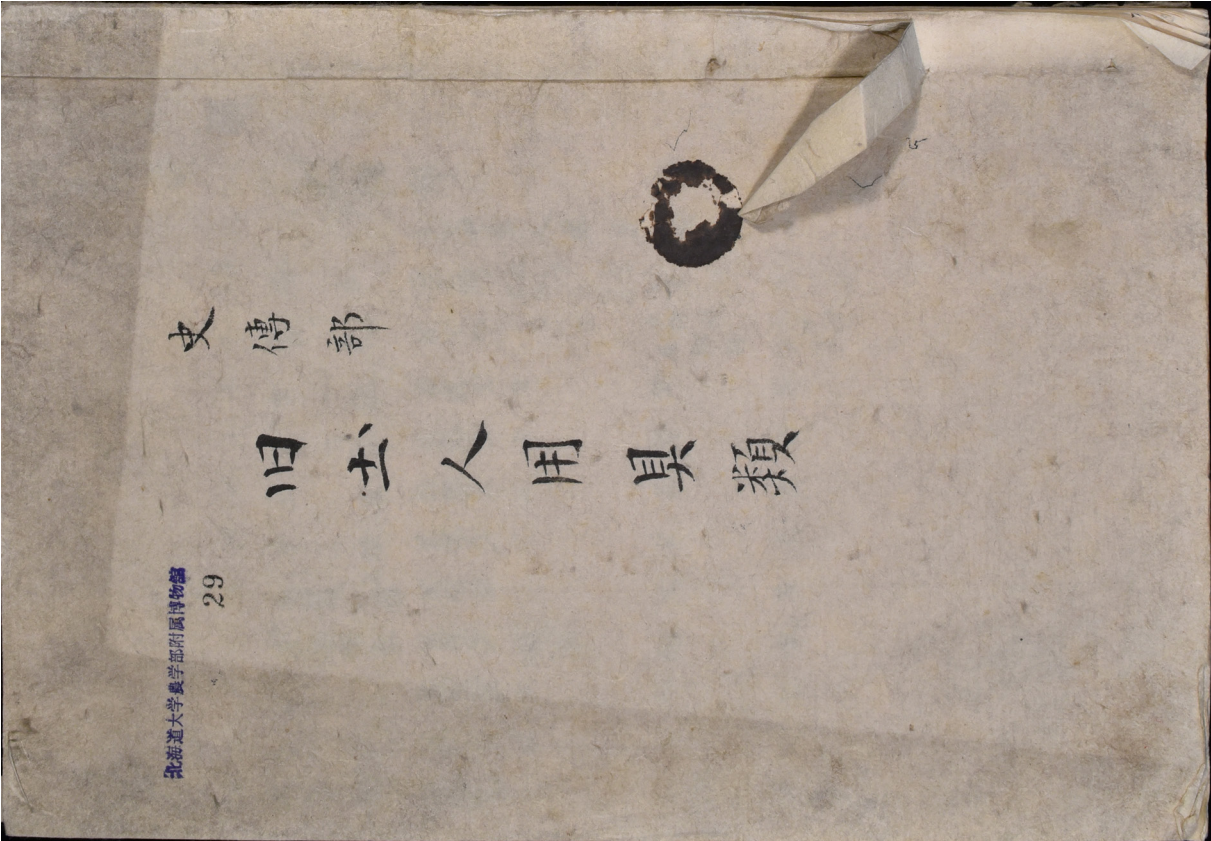


図 11.「10557」の資料番号が記載された取り外しラベル



HUNHM 史料 029_表紙

二重標形多

史傳部		旧土人用具類		品名		番号
品名	價額	採集年月日	採集場所	產地	原由	
幣束	金拾貳	明治三	石狩郡	石狩郡	開拓使	1
全一種	金貳	全	全	全	全	2
全一種	金貳	全	全	全	全	3
全一種	金拾	全	全	全	全	4
全一種	金拾	全	全	全	全	5
矢筒一種	金拾	全	全	全	全	6
屋根幣束	金拾	全	全	全	全	7
全	金拾	全	全	全	全	8
全	金拾	全	全	全	全	9
大幣束	金貳拾	全	全	全	全	10

付録 1. 029 目録

HUNHM 史料 029_01

37	ス 山	金七十匁	明治三年	石狩國	岩手使
38	ス 杵	金十匁	全	石狩郡	柳井
39	ニ 白	金十匁	全	全	全
40	ニ 大	金十匁	全	全	全
41	ニ 全	金十匁	全	全	全
42	ニ 全	金十匁	全	全	全
43	カ お	金十匁	明治三年	石狩國	柳井
44	カ 全	金十匁	全	全	全
45	ニ 火	金十匁	全	全	全
46	ニ 煙	金十匁	全	全	全
47	ニ 全	金十匁	全	全	全
48	ニ 煙	金一匁	全	日高國	全
49	ニ 全	金一匁	全	日高國	全

50	エ 髭	金三十匁	全	石狩國	全
51	エ 全	金三十匁	全	石狩郡	全
52	マ 木	金三十匁	全	全	全
53	マ 全	金三十匁	全	全	全
54	マ 全	金三十匁	全	全	全
55	マ 全	金三十匁	全	全	全
56	マ 全	金三十匁	全	全	全
57	マ 全	金三十匁	全	全	全
58	マ 全	金三十匁	全	全	全
59	マ 全	金三十匁	全	全	全
60	マ 全	金三十匁	全	全	全
61	マ 全	金三十匁	全	全	全
62	マ 全	金三十匁	全	全	全

12284

1215	ア 原 子 知 地	金 四 十 五 支		日 高 國 沙 流 郡	樺 太 集 使
1216	全 ト	金 四 十 五 支		全	全
1217	ア 足 ロ ニ グ	金 二 十 支		石 狩 郡	全
1218	本 綿 縫 衣	金 三 十 支		日 高 國 沙 流 郡	全
1219	コ 頭 巾	金 一 十 支		樺 太	全
1220	女 襦 袢	金 五 十 支			全
1221	全	金 五 十 支			全
1222	毛 衣	金 十 支		樺 太	全
1223	脚 絆	金 一 十 支		石 狩 郡	全
1224	帯 ナ	金 二 十 支		樺 太	全
1225	ア ニ 草	金 十 支	明治二年 一月廿日	樺 太	全
1226	ア ニ 草 製	金 十 支	全 日	全	全
1227	ア ニ 草 製	金 一 十 支	全 日	全	全

子
46
多
名
集
使
名
集
使
限
外
控
ナ

1228	ア ニ 草 製	金 四 十 支	全 日	樺 太 集 使	全
1229	カ 子 織 具	金 二 十 支	全 日	日 高 國 沙 流 郡	全
1230	全 一 種	金 五 十 支		全	全
1231	カ 子 織 具 板 一 種	金 二 十 支	全 日 十五年 二月	樺 太	樺 太 集 使
1232	ア フ ニ カ ニ 種	金 十 五 支	全 日	全	全
1233	ア フ ニ カ ニ 種	金 十 五 支	全 日	全	全
1234	ア フ ニ カ ニ 種	金 十 五 支	全 日	全	全
1235	全 一 種	金 二 十 支	全 日	石 狩 郡	全
1236	カ 子 織 具	金 二 十 支	全 日	全	全
1237	全 一 種	金 十 五 支	全 日	日 高 國 沙 流 郡	全
1238	カ 子 織 具	金 二 十 支	全 日	樺 太	全
1239	全 一 種	金 二 十 支	全 日	日 高 國 沙 流 郡	全
1240	カ 子 織 具	金 一 十 支		樺 太	樺 太 集 使

1767	外巻引皮	金三匁	明治三年	樺太	南樺使
1768	丸木船雛形	金一匁		日高國静 郡下今井村	全
1769	全	金一匁		全	全
1770	全一種	金一匁		樺太	全
1771	全一種	金一匁		全	全
1772	海舟雛形	金一匁 五十五匁			全
1773	大刺舟雛形	金一匁 五十五匁			全
1774	モイソフ	金一匁 五十五匁			全
1775	全ソフ	金一匁 五十五匁			全
1776	モイソフ	金一匁 五十五匁			全
1777	全ソフ	金一匁 五十五匁			全
1778	刺舟雛形	金一匁 五十五匁			全
1779	全ソフ	金一匁 五十五匁			全
1780	藏雛形	金五匁		樺太	全
1781	倉雛形	金三匁		日高國 静郡	全
1782	熊笹雛形	金一匁		全	全
1783	家雛形	金八匁		全	全
1784	小屋組雛形	金二匁 五十五匁		石狩郡	全
1785	全	金二匁 五十五匁		樺太	全
1786	銘	金七匁			全
1787	全	金七匁			全
1788	全一し	金七匁			全
1789	全一し	金七匁			全
1790	全一し	金七匁			全
1791	全一し	金七匁		樺太	全
1792	全一し	金二匁		全	全
1793	全一し	金二匁		全	全

232	全	金十匁				
233	失 ¹ カ ¹	金十匁			高 ¹ 流 ¹ 郡	全
234	全 ¹ カ ¹ 工 ¹	金十匁			高 ¹ 流 ¹ 郡	全
235	全	金十匁			高 ¹ 流 ¹ 郡	全
236	背 ¹ 負 ¹ 繩 ¹	金三十匁			高 ¹ 流 ¹ 郡	全
237	全 ¹ カ ¹ 工 ¹	金十匁			高 ¹ 流 ¹ 郡	全
238	熊 ¹ 繩 ¹	金十匁	金十五年		高 ¹ 流 ¹ 郡	全
239	火 ¹ 打 ¹ 道 ¹ 具 ¹	金十匁			高 ¹ 流 ¹ 郡	全
240	頭 ¹ 巾 ¹	金十匁			高 ¹ 流 ¹ 郡	全
241	小 ¹ 刀 ¹ 鞘 ¹	金十匁	金十五年		高 ¹ 流 ¹ 郡	全
242	小 ¹ 刀 ¹ 鞘 ¹	金十匁	金十五年		高 ¹ 流 ¹ 郡	全
243	山 ¹ 刀 ¹	金十匁	金十五年		高 ¹ 流 ¹ 郡	全
244	刀 ¹ 鞘 ¹	金十匁	金十五年		高 ¹ 流 ¹ 郡	全

245	木 ^ノ 類 ^ノ 久 ^ク	金十匁	全	日	全	日高國
246	木 ^ノ 皿 ^ニ	金十匁	全	日	全	砂流郡
247	全 ^一 種 ^ノ	金十匁	全	日	全	
248	全 ^一 種 ^ノ	金十匁	全	日	全	
249	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
250	木 ^ノ 鉢 ^ノ 鉢 ^ノ	金十匁	全	日	全	
251	酒 ^ノ 柄 ^ノ 取 ^ノ 取 ^ノ	金十匁	全	日	全	
252	全 ^一 種 ^ノ	金十匁	全	日	全	
253	木 ^ノ 子 ^ノ	金十匁	全	日	全	
254	樽 ^ノ 皮 ^ノ 取 ^ノ 取 ^ノ	金十匁	全	日	全	
255	樽 ^ノ 事 ^ノ 匙 ^ノ	金十匁	全	日	全	
256	全 ^一 種 ^ノ	金十匁	全	日	全	
257	全 ^一 種 ^ノ	金十匁	全	日	全	
258	全 ^一 種 ^ノ	金十匁	全	日	全	
259	木 ^ノ 盆 ^ノ	金十匁	全	日	全	
260	全 ^一 種 ^ノ	金十匁	全	日	全	
261	木 ^ノ 鉢 ^ノ 鉢 ^ノ	金十匁	全	日	全	
262	全 ^一 種 ^ノ	金十匁	全	日	全	
263	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
264	全 ^一 種 ^ノ	金十匁	全	日	全	
265	木 ^ノ 盆 ^ノ	金十匁	全	日	全	日高國
266	木 ^ノ 盆 ^ノ	金十匁	全	日	全	砂流郡
267	酒 ^ノ 柄 ^ノ 取 ^ノ 取 ^ノ	金十匁	全	日	全	工全縣人
268	全 ^一 種 ^ノ	金十匁	全	日	全	
269	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
270	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
271	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
272	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
273	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
274	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
275	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
276	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
277	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
278	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
279	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
280	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
281	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
282	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
283	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
284	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
285	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
286	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
287	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
288	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
289	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
290	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
291	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
292	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
293	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
294	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
295	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
296	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
297	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
298	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
299	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	
300	木 ^ノ 口 ^ノ フ ^フ	金十匁	全	日	全	

番号	品名	価額	採集年月日	採集場所	原由
271	ニシカ 女子耳環	金三匁	昭和十七年 十月	日高國 沙流郡	
272	カシカ 女子耳環	金一匁	全	全	
273	イバ 熊皮箸	金五匁	全	全	
274	ニシカ 木皿	金一匁	全	日高國 十勝郡	

番号	品名	価額	採集年月日	採集場所	原由
275	ニシカ 木皿	金三匁	昭和十七年 十月廿日	日高國 十勝郡	場外採集
276	カシカ 刀ノ帯板	金一匁	全	日高國 沙流郡	全
277	カシカ 全一ノ種	金一匁	全	全	全
278	カシカ 全一ノ種	金一匁	全	全	全
279	カシカ 織具板	金一匁	全	全	全
280	カシカ 織具	金一匁	全	全	全
281	カシカ 全一ノ種	金一匁	全	全	全
282	カシカ 全一ノ種	金一匁	全	全	全
283	カシカ 全一ノ種	金一匁	全	全	全
284	カシカ 全一ノ種	金一匁	全	全	全
285	カシカ 全一ノ種	金一匁	全	全	全
286	カシカ 全一ノ種	金一匁	全	全	全

アイヌ民族資料
採集場所

287	子背負繩	金十匁	全日	日高國 沙流郡	増尾村集
288	筒	金十匁	全日	全	全
289	太刀鐙形	金十匁	全日	全	全
290	刀鐙形	金十匁	全日	全	全
291	全一コ口形	金十匁	全日	全	全
292	失同口形	金十匁	全日	全	全
293	全一コ口形	金十匁	全日	全	全
294	筒	金十匁	全日	全	全
295	筒	金十匁	全日	全	全
296	筒	金十匁	全日	全	全
297	筒	金十匁	全日	全	全
298	筒	金十匁	全日	全	全
299	筒	金十匁	全日	全	全

300	筒	金十匁	全日	全	全
301	筒	金十匁	全日	全	全
302	筒	金十匁	全日	全	全
303	筒	金十匁	全日	全	全
304	筒	金十匁	全日	全	全
305	筒	金十匁	全日	全	全
306	筒	金十匁	全日	全	全
307	筒	金十匁	全日	全	全
308	筒	金十匁	全日	全	全
309	筒	金十匁	全日	全	全
310	筒	金十匁	全日	全	全
311	筒	金十匁	全日	全	全
312	筒	金十匁	全日	全	全

番 号	品 名	價 額	辨 別 年 月 日	集 録 号	産 地	原 由
329	木綿襦袢	金四両	全十三 年八月廿日		膳所國 十蔵郡	土人主 贈与
330	脚絆	金一両	全日		全	全
331	子袋	金五匁	全日		全	全
332	糸縄	金五匁	全日		全	全
333	全一様	金五匁	全日		全	全
334	木皮鍋	金五匁	全日		全	全
335	全一様	金五匁	全日		全	全
336	カエツ	金五匁	全日		全	全
337	全一様	金五匁	全日		全	全
338	木皮船形	金五匁	全日		全	全
339	火市入	金拾匁	天塩		天塩	土人主 贈与
340	女子帯	金六両	擇太		擇太	全

[illegible]

所

北海道大学農学部附属博物館

146

志

類
号
人
用
登
具

種

譯
名

事

由

1 エ ナ ナ

幣 東

石狩方面土人祭式部註品々他神宗各自持禮天

十歳 西ノ道ニ此ノ品々ヲ持テ
州ノ北ニ極メテ至リテ不燐ノ品々ヲ下ニ

2 エ ナ ナ

幣 東

石狩

十歳 西ノ道

3 エ ナ ナ

幣 東

石狩

十歳 西ノ道

4 ア バ カ ミ イ

神 幣 東

石狩方面土人火神祭部此品々他壇傍立神ト
唱テ拜禮ス十歳

十五口刀々々

5

幣 東

石狩

土人祭式部註品々他壇傍立神ト
唱テ拜禮ス十歳
土人火神祭部此品々他壇傍立神ト
唱テ拜禮ス十歳

6 イ カ ユ

幣 幣

石狩

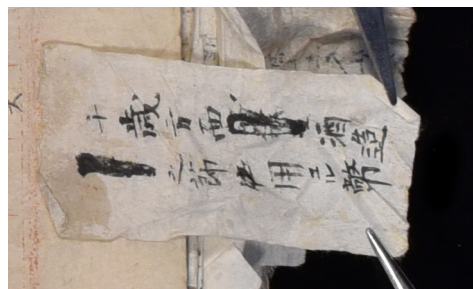
土人熊祭部箭筒形ト造リ神前ニ供ス
土人火神祭部此品々他壇傍立神ト
唱テ拜禮ス十歳

小月五二口

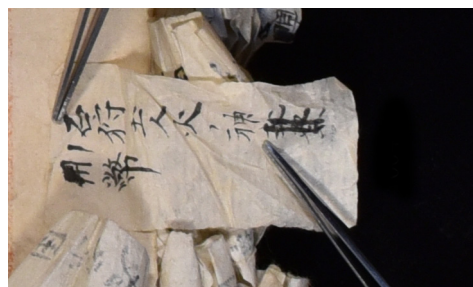
十歳

石狩

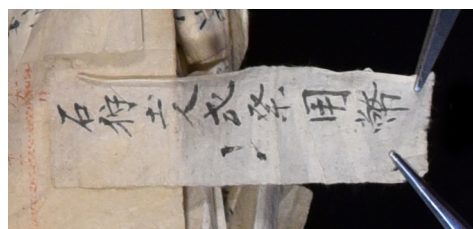
石狩



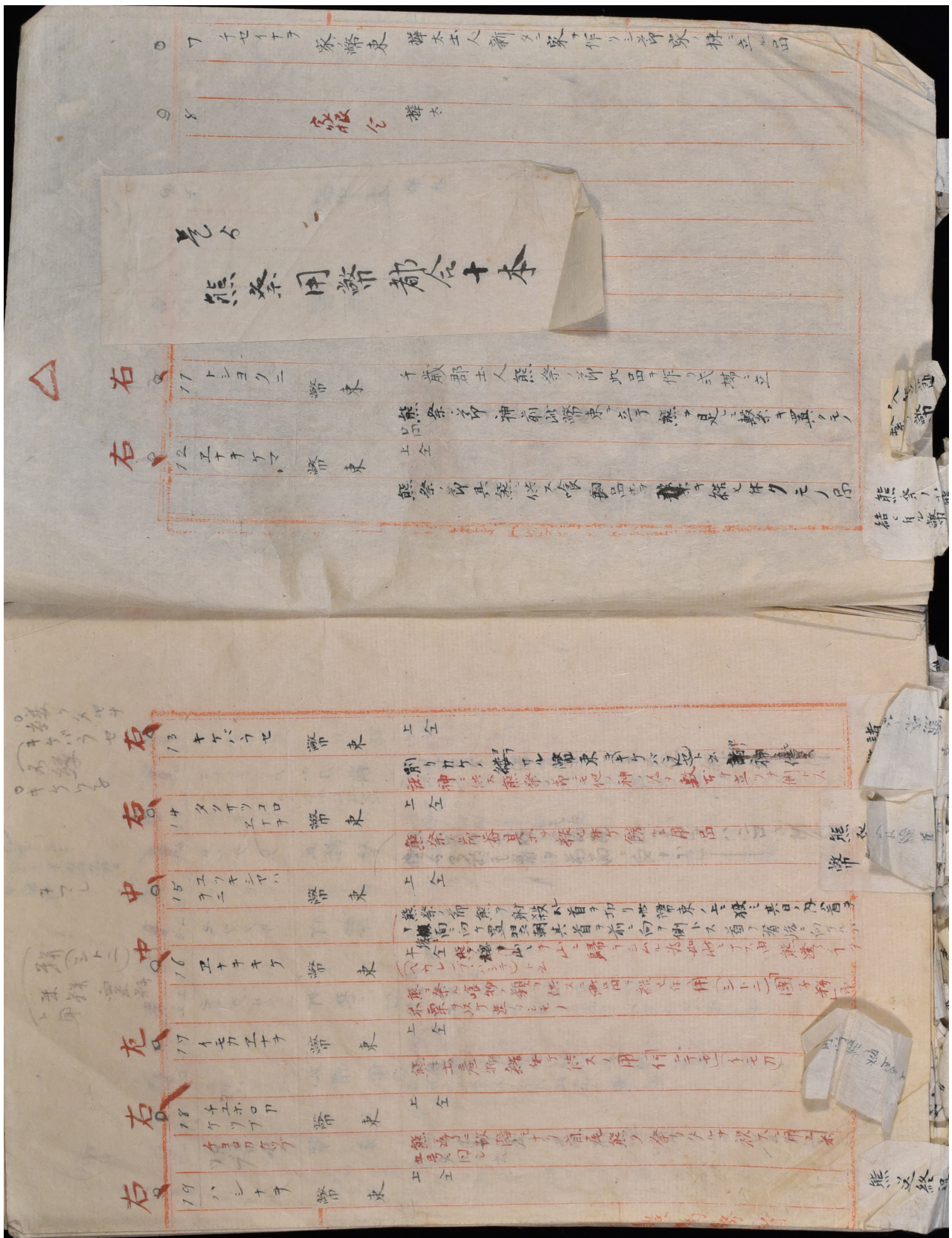
1 付箋

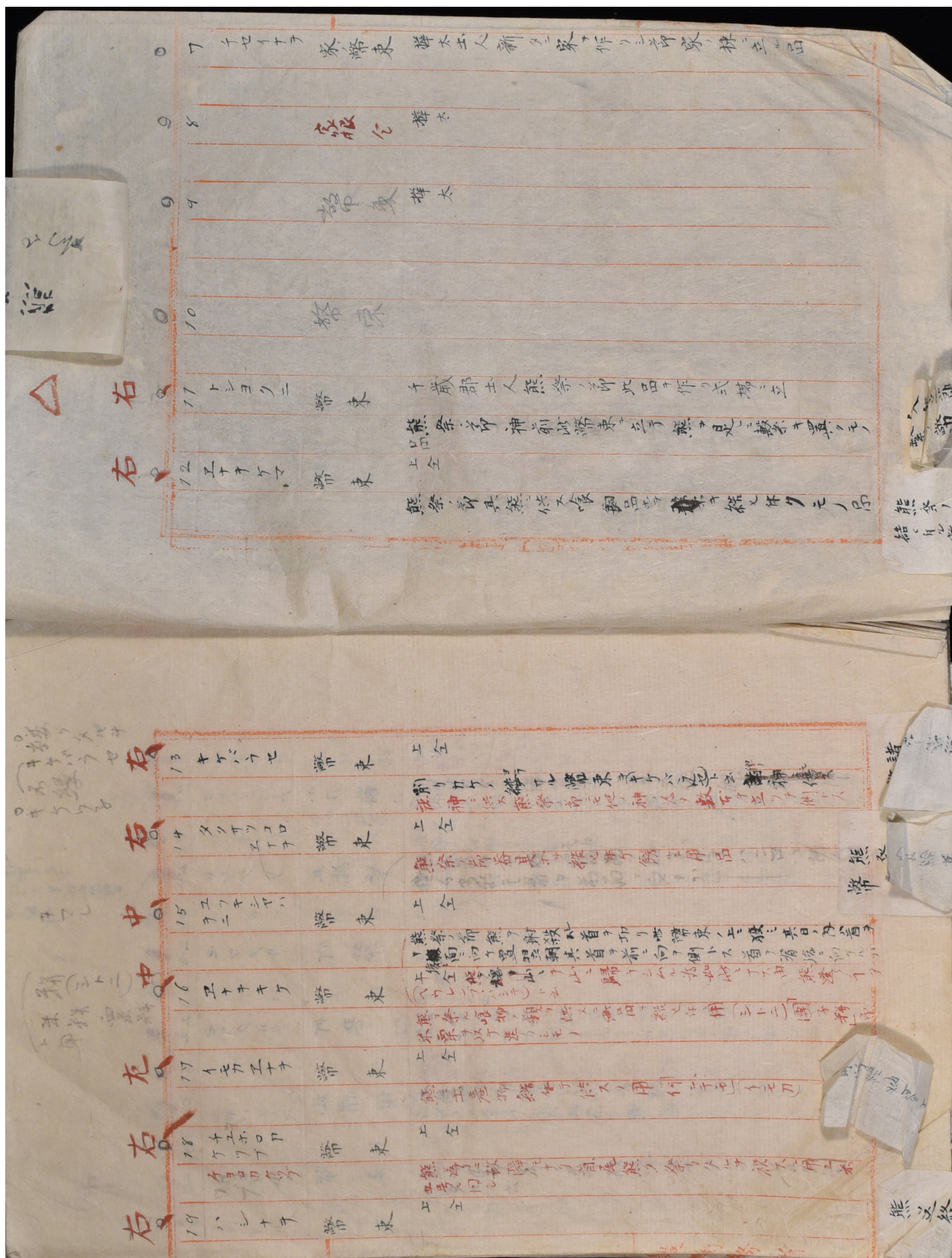


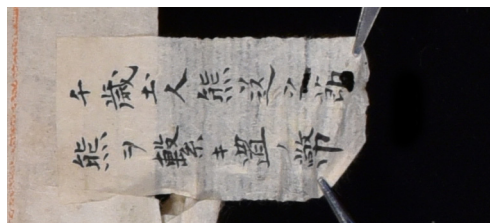
4 付箋



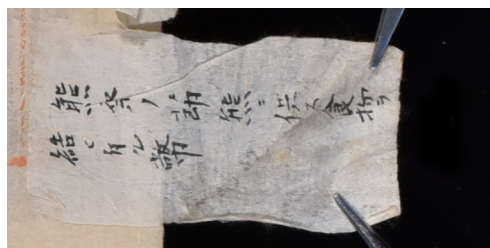
5 付箋



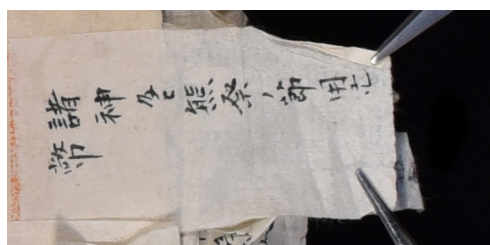




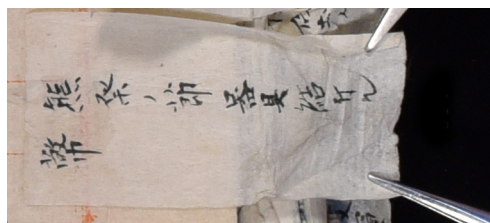
11 付箋



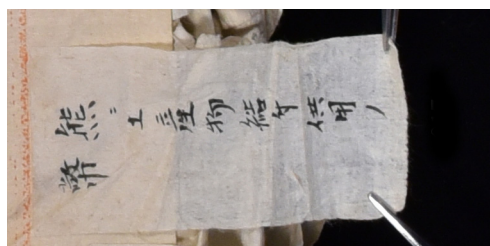
12 付箋



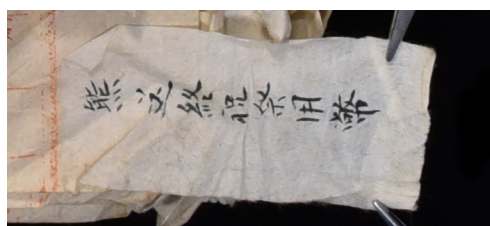
13 付箋



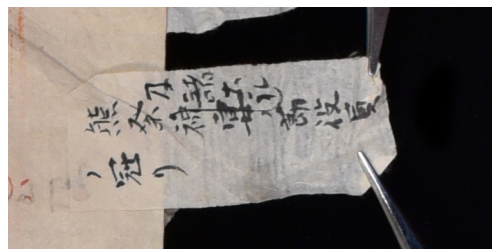
14 付箋



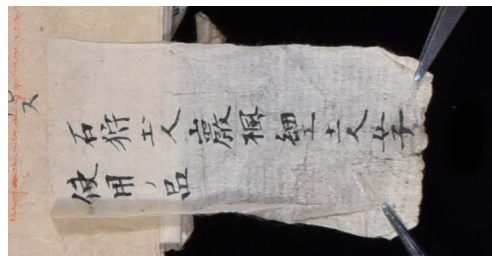
17 付箋



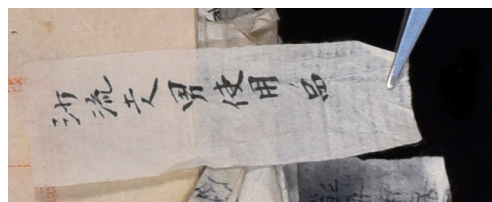
18 付箋



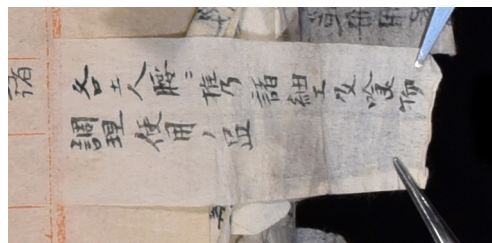
21 付箋



25 付箋

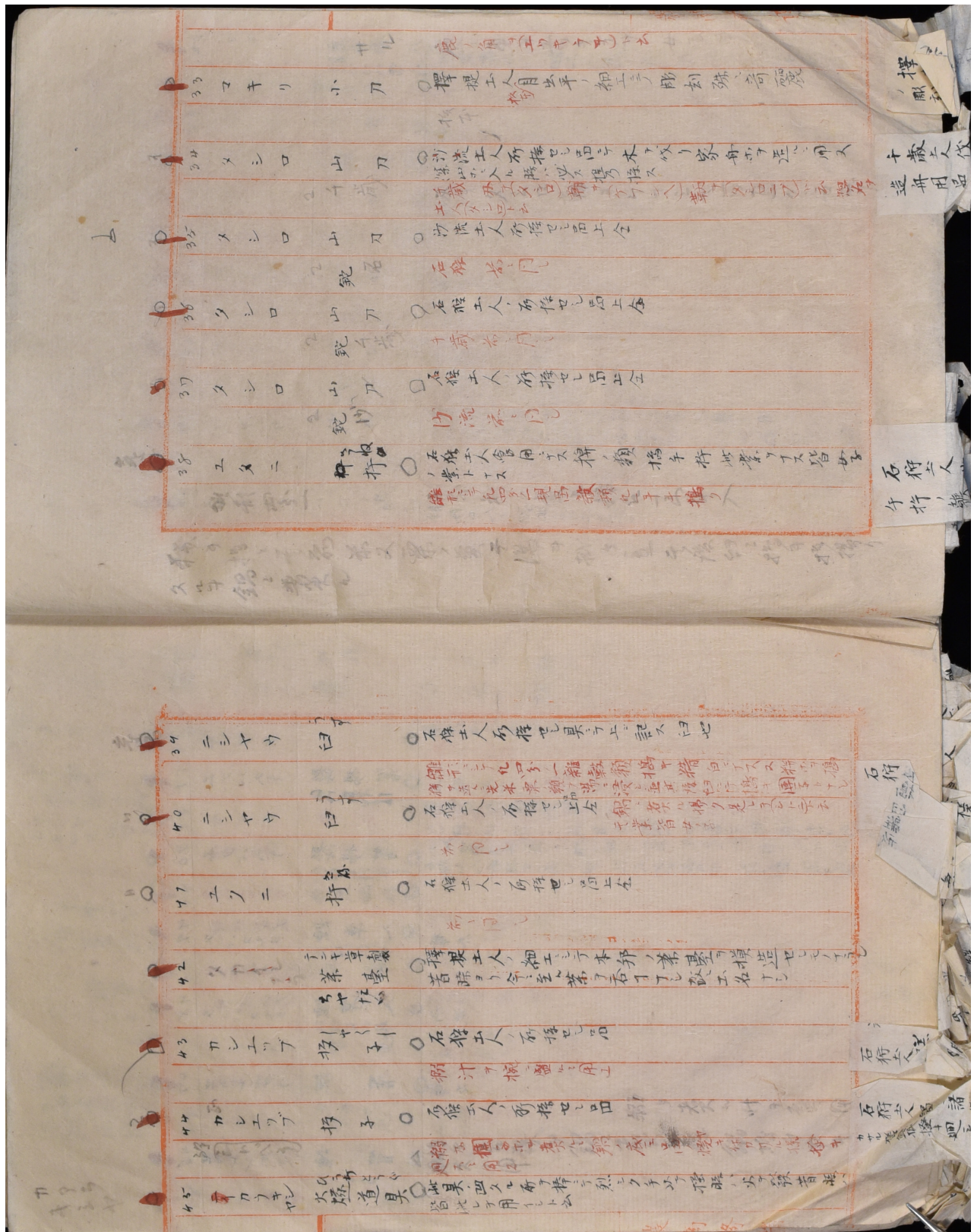


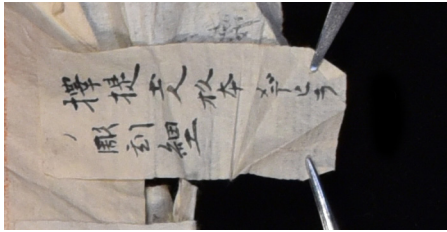
26 付箋



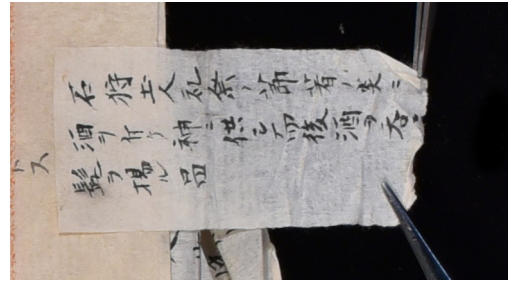
27 付箋

中	20	イナナ	帯束	上全	
	21	ニヤバアベ	礼帽類	石狩工人祭式、前此品ヲ須冠リテ式ニ列ス其ニ度奇 白楊樹前リタル一箇先ツ増テ常例ト入候ニ五ナキ導ハ 祭祝宴ノ儀、後人ナリトモ儀ハ別ノニハノ類ナリ	熊奈刀 冠
	22	モツクリ	竹琴	静内工人女子用イ品ニテ此器ヲロニ吐エ呼吸ニテ 音ノ鼓ヲ吹シ他ノ歌ニ合シテ快ナラス悉此ノ礼祭ノ儀ナリ 用ヤルナリ	
	23	モツクリ	竹琴	上全	
中 忘 六 年 外 間 後 明 也 儀 ニ 意 シ	24	トングリ	五絃琴	榊木工人女子樂器ニテ使用ハ中邦ノ三呼稱ヲ彈ク 礼祭ノ儀ナリ用ヤルナリ由 タ又知テ入ル所ニ此ノ作ナリトモナリ	
	25	マキリシカ	小刀鞘	石狩工人、細工ヲ産製シ造リ鮮明ナリ彫刻ニシテ品ナリ タ又知テ入ル所ニ此ノ作ナリトモナリ	石狩工 使用
	26	マキリシカ	小刀鞘	静内工人、細工ニ上全 沙流工人、男、用ニル品	沙流
	27	マキリ	小刀	石狩工人、所携セ品ナリ各工人少ク一箇腕腰携フ諸 細工物及テ食物ナリ調理ナス皆此具ヲ用エ 擧	各々 調理使
	28	マキリ	小刀	沙流工人、上全 用ニル品 精内工人、ナリ	
	29	マキリ	小刀	榊木工人、上全	
	30	マキリ	小刀	榊木工人、上全	
	31	マキリ	小刀	榊木工人、上全	
	32	マキリ	小刀	鹿角鞘小刀、沙流郡工人、細工ヲ産、角ニ彫刻ニテ鞘ニ具セ タ又知テ入ル所ニ此ノ作ナリトモナリ	

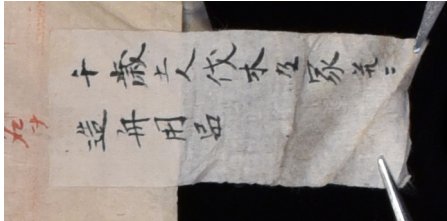




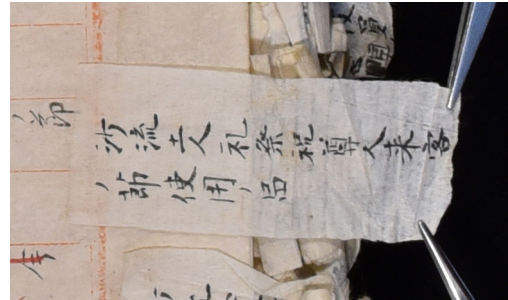
33 付箋



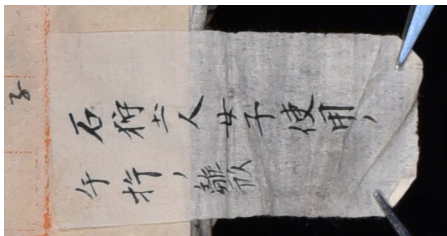
50 付箋



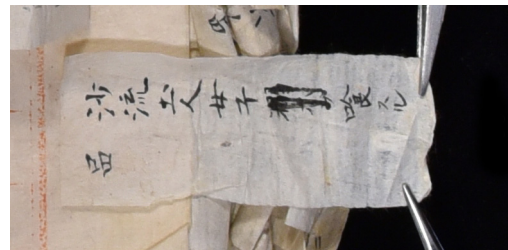
34 付箋



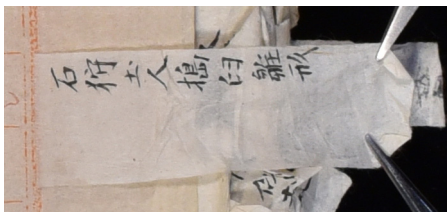
55 付箋



38 付箋



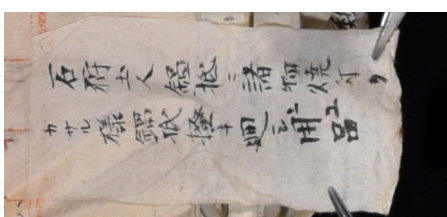
56 付箋



39 付箋

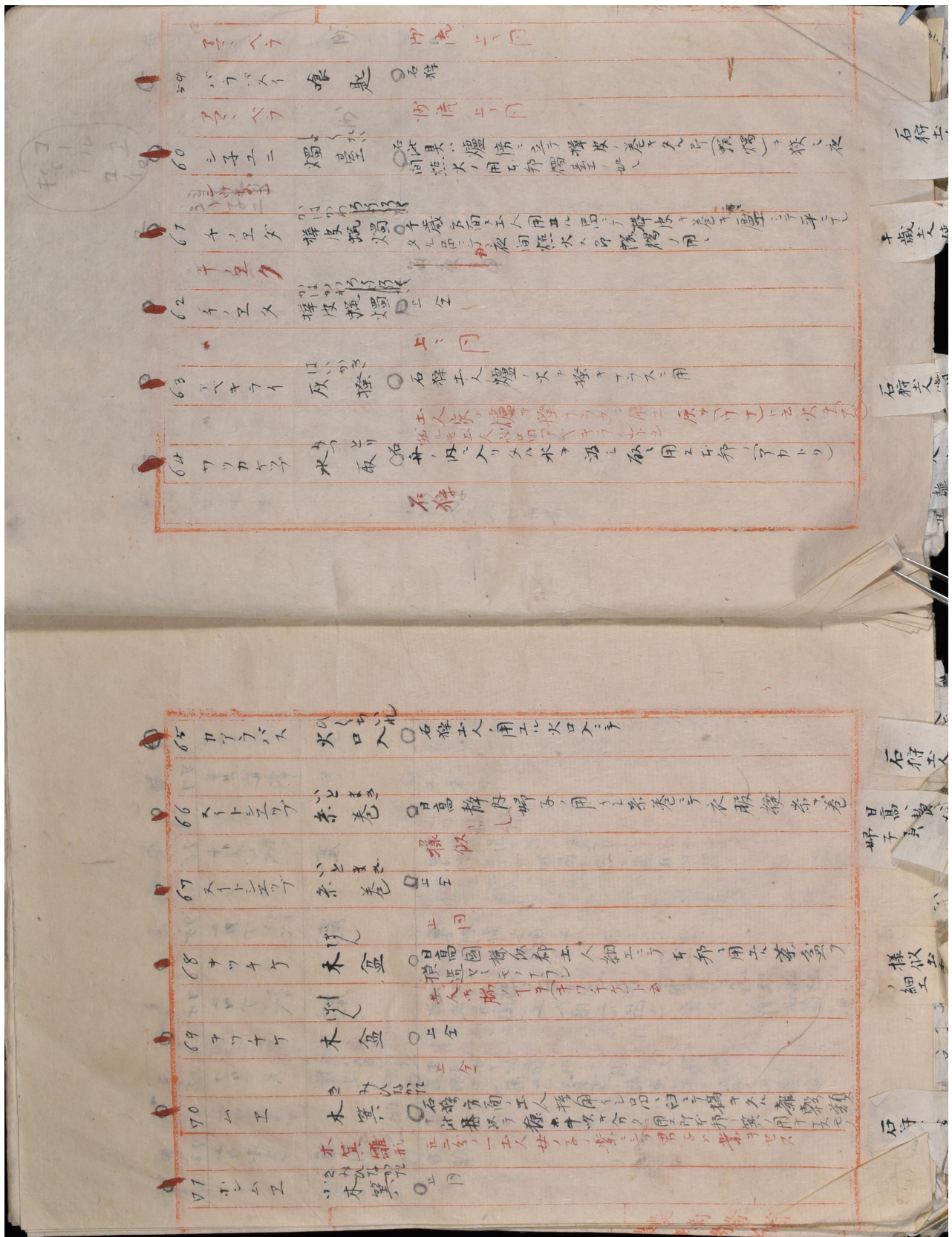


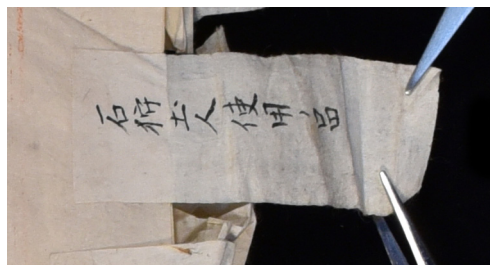
43 付箋



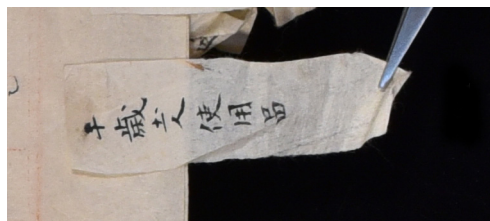
44 付箋

46	セウレシホウ	煙管	○ 榊木
47	セウレシホウ	煙管	○ 榊木
48	タンバユ	煙草入	○ 折流
49	タンバユ	煙草入	○ 榊木
50	エグバク	髭揚箸	○ 石将工人所推せし品
51	エグバク	髭揚箸	○ 石将工人所推せし品
52	マトキ		○ 榊木工入新用品
53	マトキ		○ 榊木工入新用品
54	カワク		○ 石将
55	タカエサ		○ 石将工入新推せし品
56	チエス		○ 石将
57	バババ		○ 石将
58	バババ		○ 石将

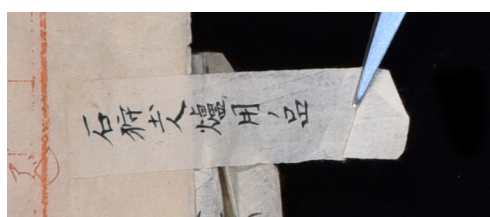




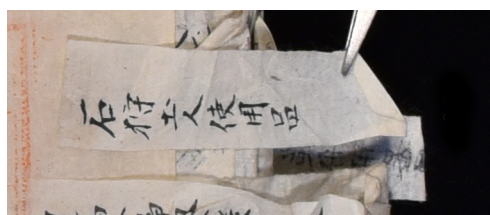
60 付箋



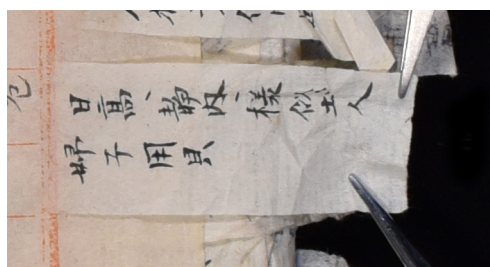
61 付箋



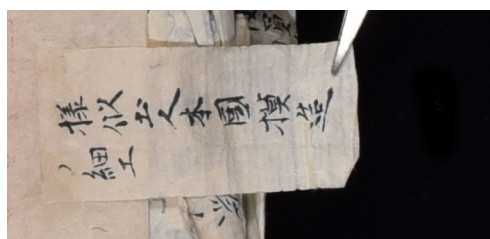
63 付箋



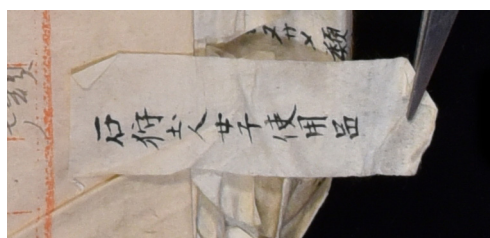
65 付箋



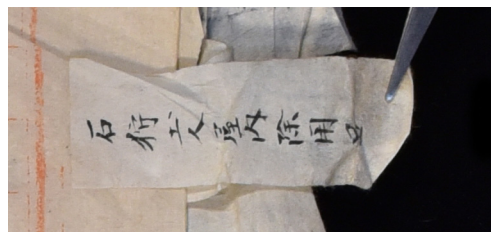
66 付箋



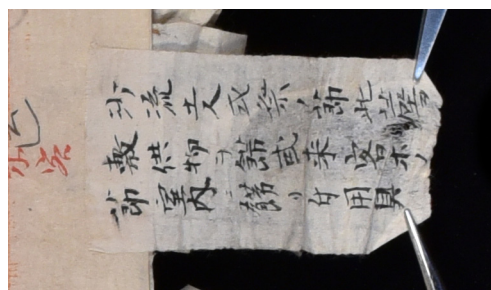
68 付箋



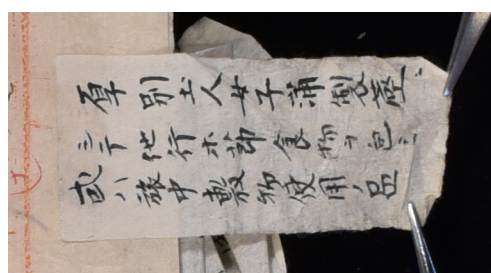
70 付箋



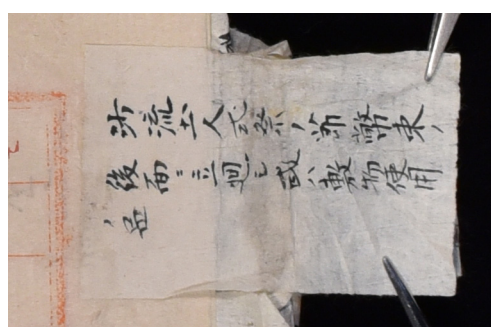
72 付箋



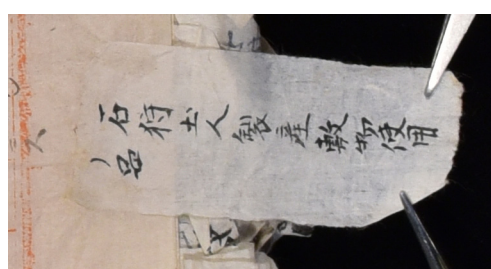
74 付箋



76 付箋



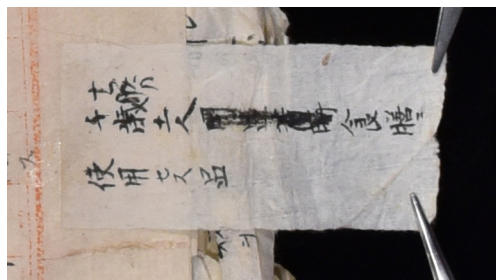
78 付箋



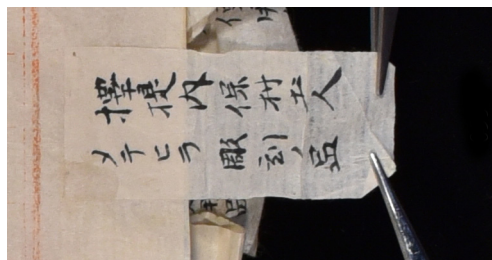
80 付箋

72	フナツツ	葡萄葉	石狩	石狩
73	フニス	粹皮	石狩	石狩
74	ニコブンベ	産	石狩	石狩
75	ニコブンベ	産	石狩	石狩
76	ナタルベ	産	石狩	石狩
77	ナタルベ	産	石狩	石狩
78	ナタルベ	産	石狩	石狩
79	ナタルベ	産	石狩	石狩
80	ナタルベ	産	石狩	石狩
81	ナタルベ	産	石狩	石狩
82	ナタルベ	産	石狩	石狩
83	ナタルベ	産	石狩	石狩
84	ナタルベ	産	石狩	石狩

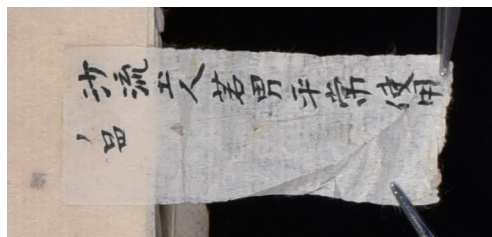
85	ナナ	草	沙流産上金
86	ナナ	草	沙流産上金
87	ナナ	草	白老産
88	ナナ	草	白老産
89	ナナ	草	白老産
90	ナナ	草	千歳産
91	ナナ	草	千歳産
92	ナナ	草	千歳産
93	ナナ	草	千歳産
94	ナナ	草	千歳産
95	ナナ	草	千歳産
96	ナナ	草	千歳産
97	ナナ	草	千歳産



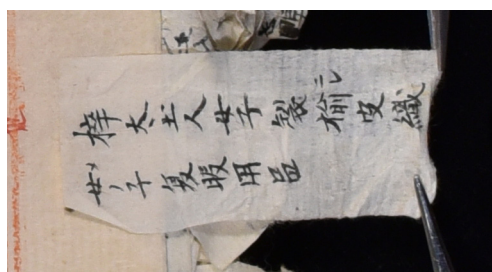
95 付箋



99 付箋



101 付箋



107 付箋

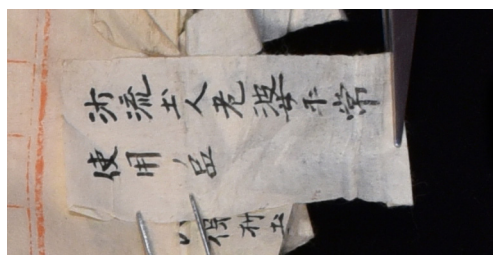
98	莞蘭苳	エ全	
99	ナツナ	水盆	模提工、目出年、彫刻、三才、茶盆、
100	コウジ	毛皮頭巾	群衣
101	マメヅシ	鉢巻	石燈、三才、
102	マメヅシ	鉢巻	石燈、三才、
103	アムロ	皇子衣	群衣
104	アムロ	皇子衣	群衣
105	アムロ	皇子衣	群衣
106	アムロ	皇子衣	群衣
107	アムロ	皇子衣	群衣
108	グーナ	女、帯	群衣
109	グーナ	女、帯	群衣
110	グーナ	女、帯	群衣

171	グーチ	帯	○サカ	サカ
172	帽子	子	○サカ	サカ
173	木皮帽子	子	○サカ	サカ
174	脚	肘	○サカ	サカ
175	アット	子	○サカ	サカ
176	アット	子	○サカ	サカ
177	クロンブ	足袋	○サカ	サカ
178	カバ	子	○サカ	サカ
179	コウ	子	○サカ	サカ
180	モウ	子	○サカ	サカ
181	モウ	子	○サカ	サカ
182	モウ	子	○サカ	サカ
183	グーチ	脚	肘	○サカ

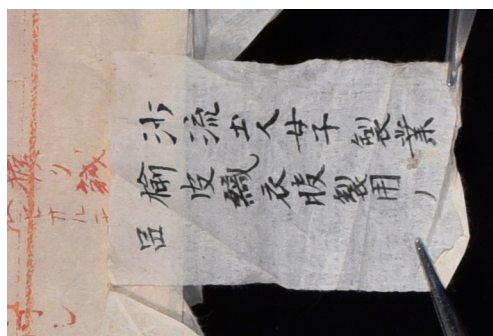
織衣

礼流

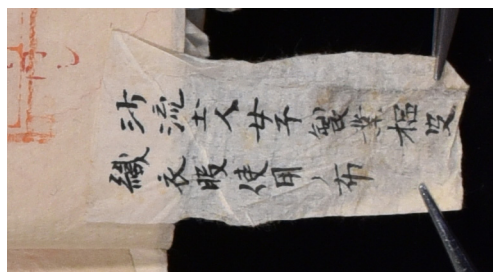
礼流



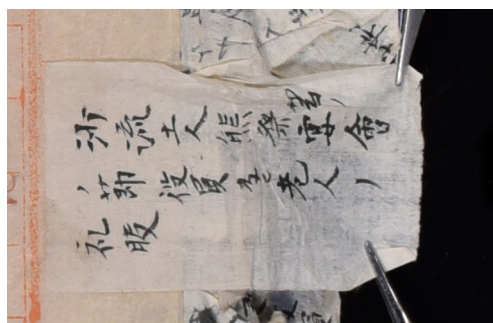
111 付箋



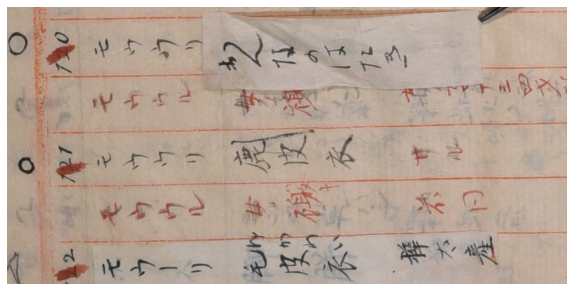
115 付箋



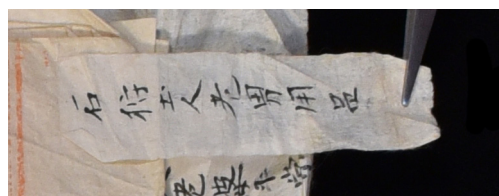
116 付箋



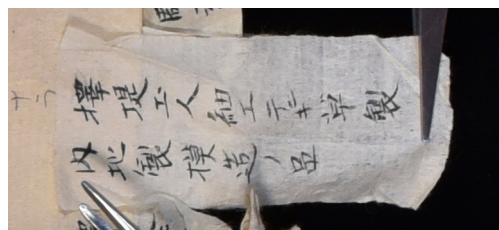
118 付箋



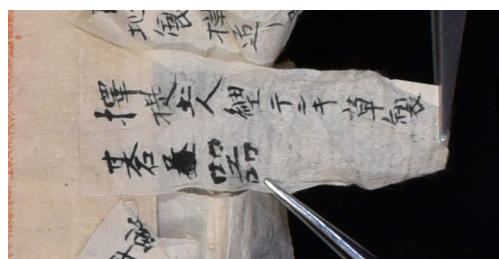
120 付箋



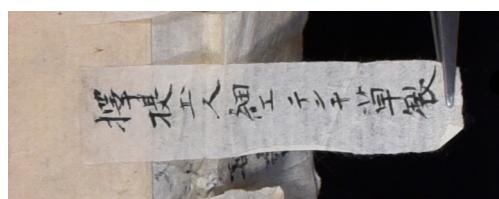
123 付箋



126 付箋



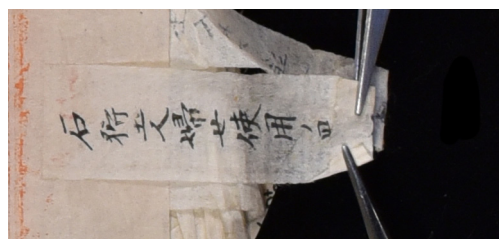
127 付箋



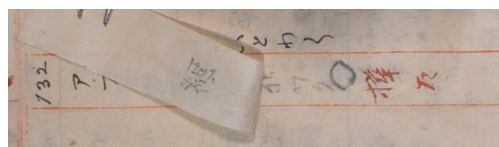
128 付箋



129 付箋

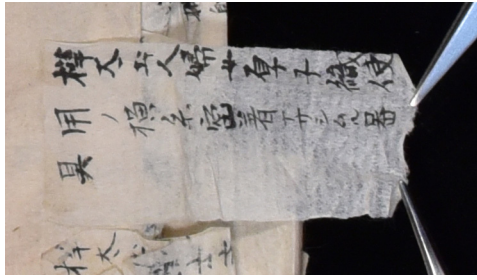


131 付箋

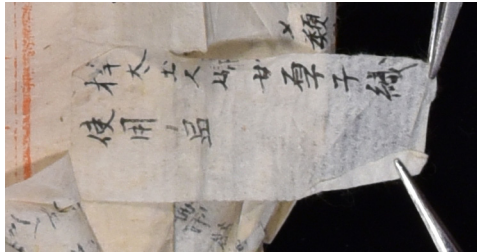


132 記載

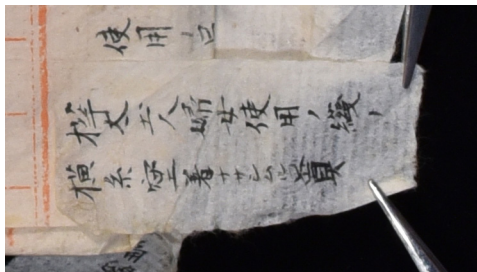
124	クーナ	帯	〇	擇提産
125	ラキ草	〇	擇提産	
126	三徳入	〇	品致	土名丁し
127	基岩	〇	全ニ	土人細工ヲ在邦ノ基岩ヲテエキ草ニ造リシモノ故土名丁し
128	桐	〇	全上	
129	カナルベ	〇	日高國	赤流方面ニ在リト云
130	カタレンベ	〇	全	
131	カマカツ	〇	石	
132	アブニカニ	〇	全	
133	アブニカニ	〇	全	
134	アツシカニ	〇	全	
135	アツシカニ	〇	全	
136	クウベ	〇	全	



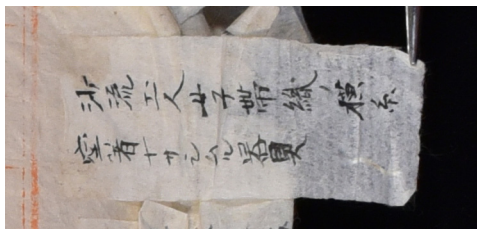
134 付箋



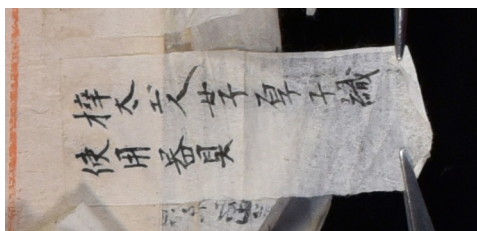
135 付箋



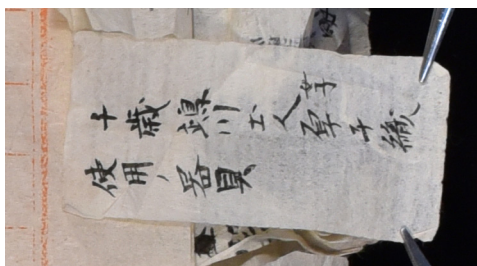
136 付箋



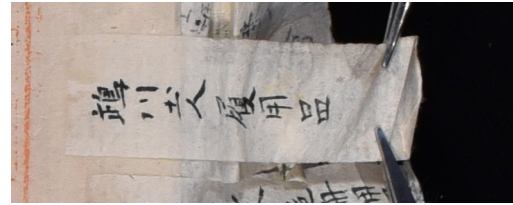
137 付箋



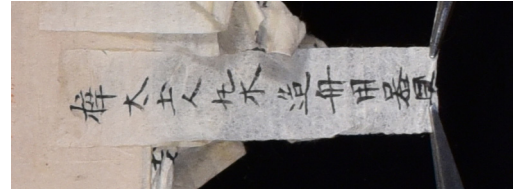
138 付箋



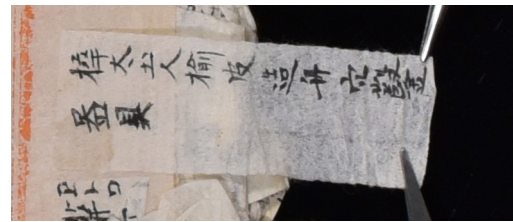
139 付箋



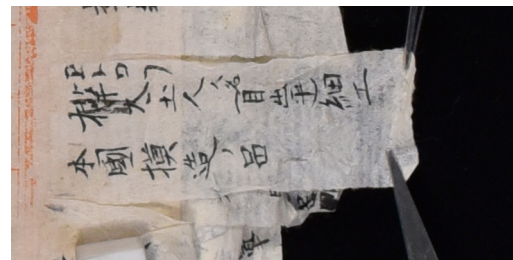
141 付箋



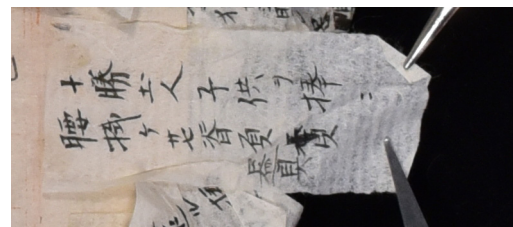
142 付箋



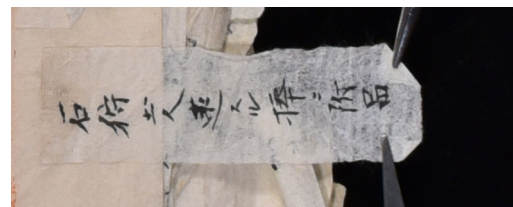
144 付箋



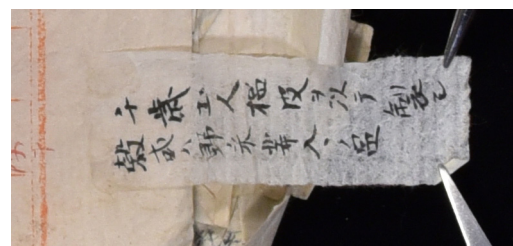
145 付箋



146 付箋

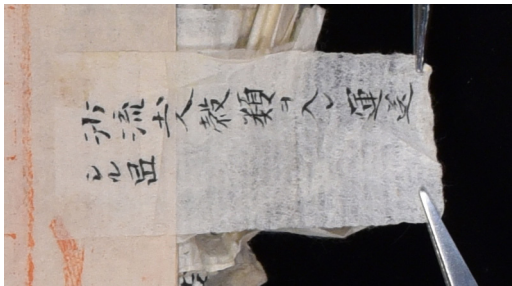


147 付箋

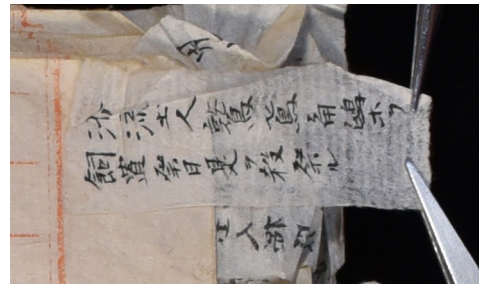


148 付箋

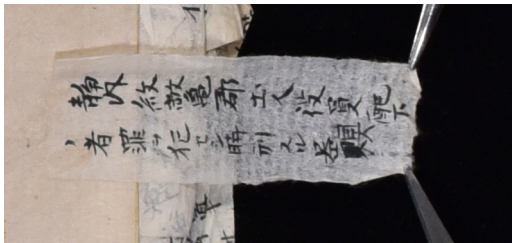
我々



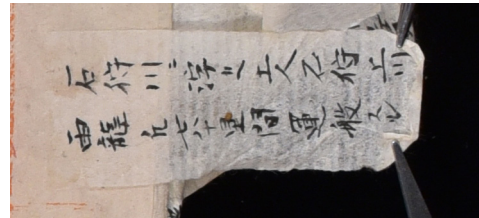
154 付箋



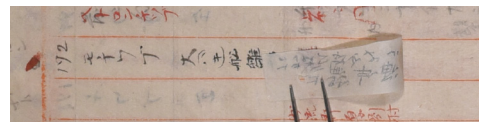
162 付箋



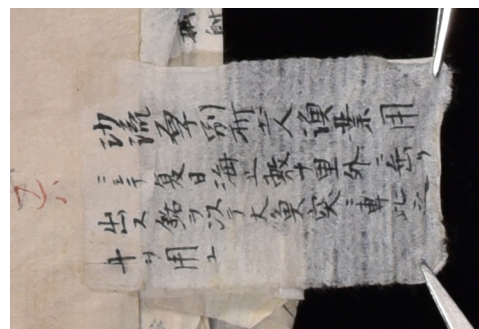
158 付箋



168 付箋



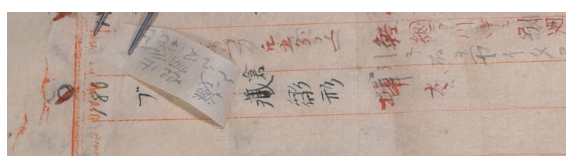
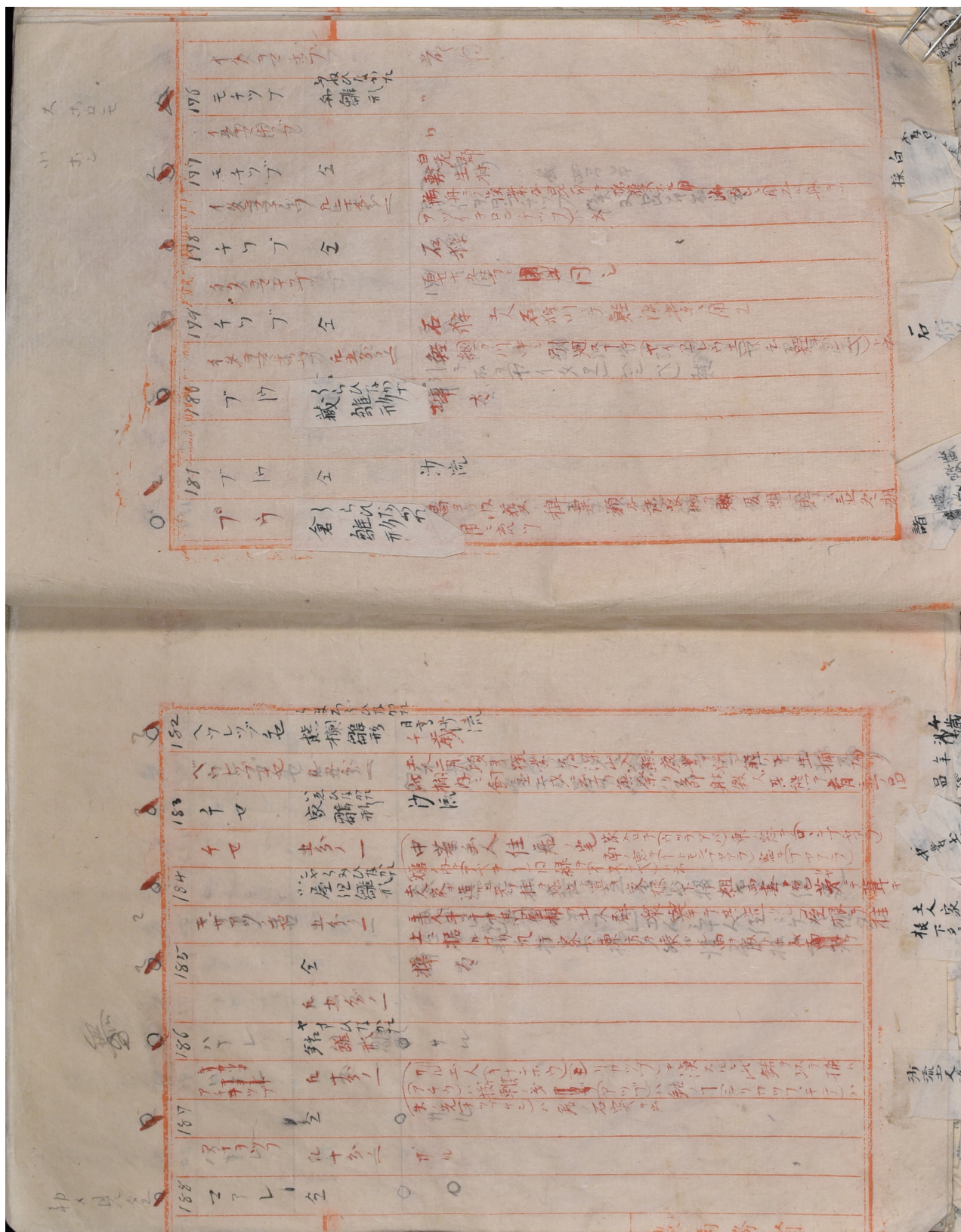
172 記載



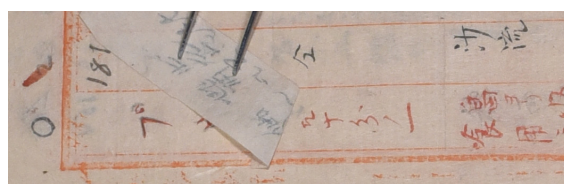
173 付箋

163	クナレ	大車	様大	クナレ	大車	様大
164	クナレ	全	様大	クナレ	全	様大
166	全	様大	様大	全	様大	様大
167	全	様大	様大	全	様大	様大
168	全	様大	様大	全	様大	様大
169	全	様大	様大	全	様大	様大
170	全	様大	様大	全	様大	様大
171	全	様大	様大	全	様大	様大
172	全	様大	様大	全	様大	様大
173	全	様大	様大	全	様大	様大
174	全	様大	様大	全	様大	様大
175	全	様大	様大	全	様大	様大

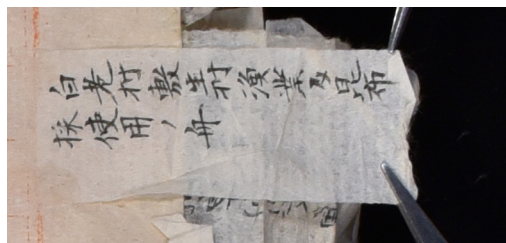
173	全	様大	様大	全	様大	様大
174	全	様大	様大	全	様大	様大



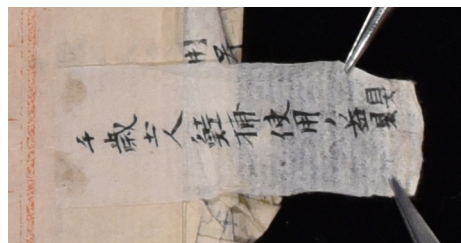
180 記載



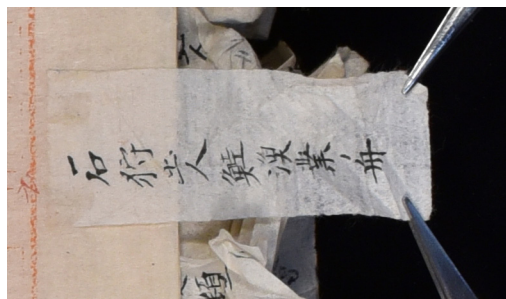
181 記載



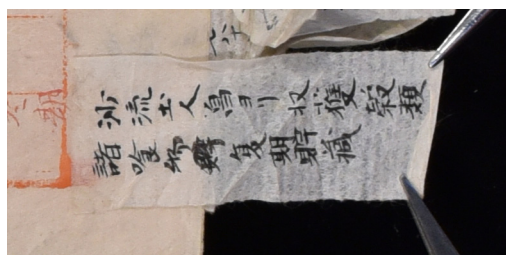
177 付箋



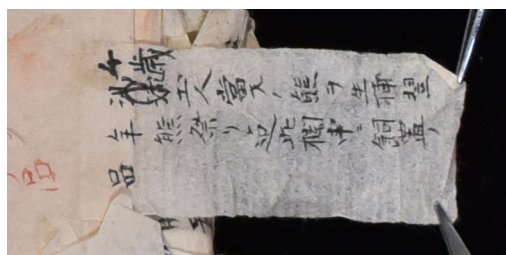
196 付箋



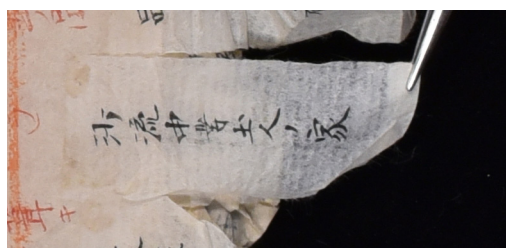
179 付箋



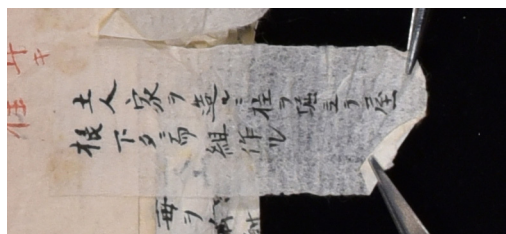
181 付箋



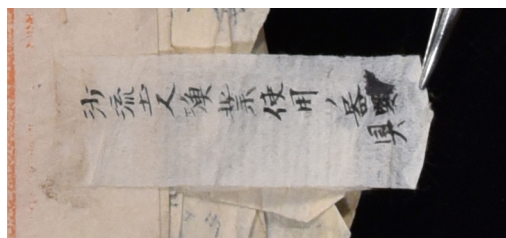
182 付箋



183 付箋

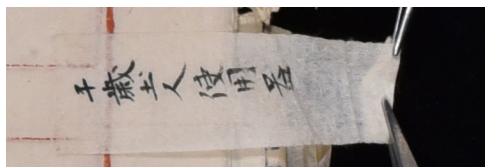


184 付箋

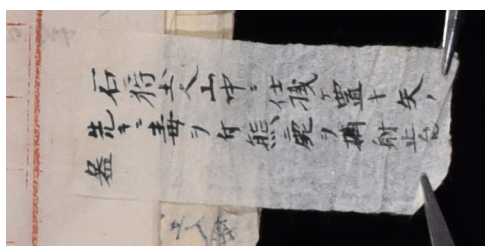


186 付箋

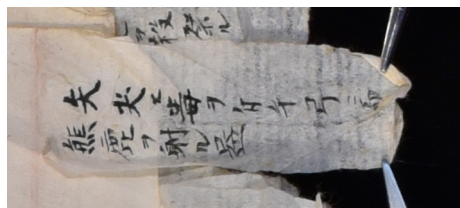
189	マアレ、全	〇サレ	〇
190	マアレ、全	〇	〇
191	マアレ、全	〇	〇
192	マアレ、全	〇	〇
193	マアレ、全	〇	〇
194	マアレ、全	〇	〇
195	マアレ、全	〇	〇
196	マアレ、全	〇	〇
197	マアレ、全	〇	〇
198	マアレ、全	〇	〇
199	マアレ、全	〇	〇
200	マアレ、全	〇	〇



201 付箋

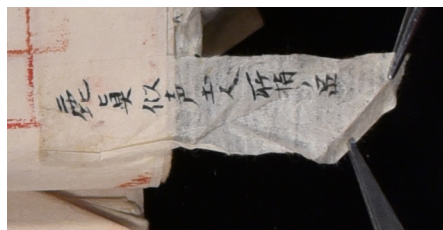


202 付箋

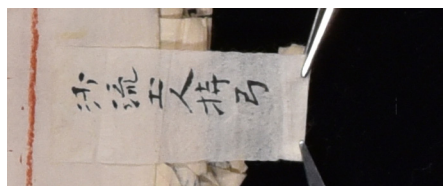


206 付箋

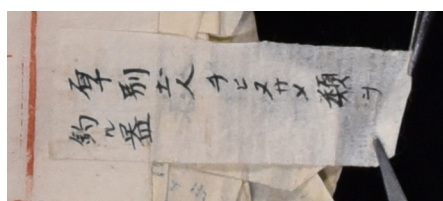
[illegible]



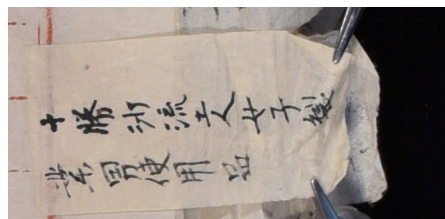
226 付箋



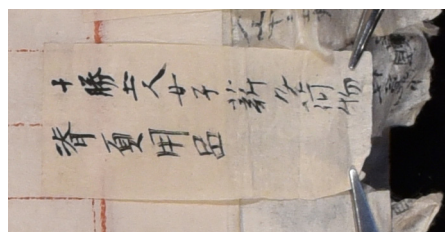
228 付箋



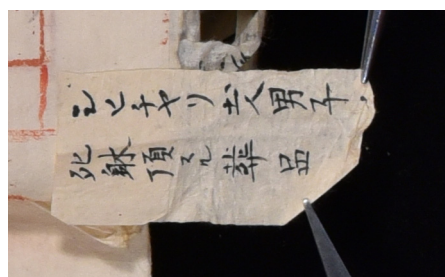
231 付箋



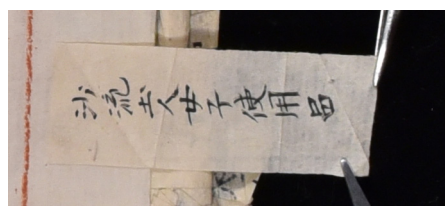
236 付箋



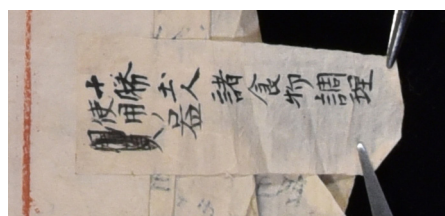
237 付箋



240 付箋

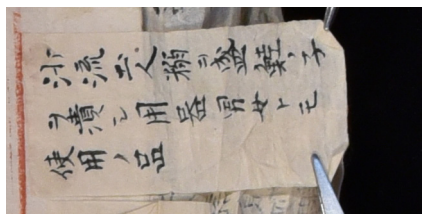


242 付箋

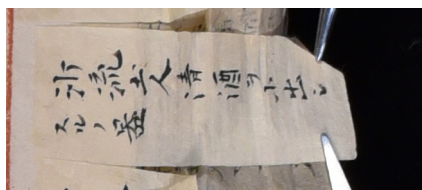


245 付箋

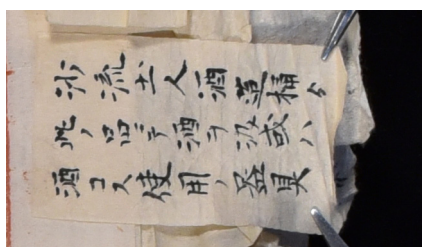
(248) = 248 (249)	248	ニ マ	全 一 種	きこふいめ 248 = 同之 日高國津流郡	
	249	エトツツ	本ノ片口	瓶ヲ残り錠子ヲ此番ノ内ニテツツニカキセ 用子共ニ用 津流	津流 使用ノ
	250	ボコ	きほら	ガニノ清酒ヲ小出モスルモ 全 津流	ニ ニ
	251	サケ子セツ	本ノ 鉢	瓶ヲコスノ用 此ニテ酒ヲ海ニ用 全 津流	津流 此ノ品 通コス
	252	カクツ	酒柄ヲ	全 津流	津流
	253	サケ子セツ	全 一 種	全 津流	津流
	254	サケ子セツ	全 一 種	全 津流	津流
	255	カシツ	ね 子	全 津流	津流
	256	カシツ	ね 子	全 津流	津流
	257	カシツ	ね 子	全 津流	津流
	258	カシツ	ね 子	全 津流	津流
	259	カシツ	ね 子	全 津流	津流
	260	カシツ	ね 子	全 津流	津流
	261	カシツ	ね 子	全 津流	津流
	262	カシツ	ね 子	全 津流	津流
	263	カシツ	ね 子	全 津流	津流
	264	カシツ	ね 子	全 津流	津流
	265	カシツ	ね 子	全 津流	津流
	266	カシツ	ね 子	全 津流	津流
	267	カシツ	ね 子	全 津流	津流
	268	カシツ	ね 子	全 津流	津流
	269	カシツ	ね 子	全 津流	津流
	270	カシツ	ね 子	全 津流	津流
	271	カシツ	ね 子	全 津流	津流
	272	カシツ	ね 子	全 津流	津流
	273	カシツ	ね 子	全 津流	津流
	274	カシツ	ね 子	全 津流	津流
	275	カシツ	ね 子	全 津流	津流
	276	カシツ	ね 子	全 津流	津流
	277	カシツ	ね 子	全 津流	津流
	278	カシツ	ね 子	全 津流	津流
	279	カシツ	ね 子	全 津流	津流



248 付箋



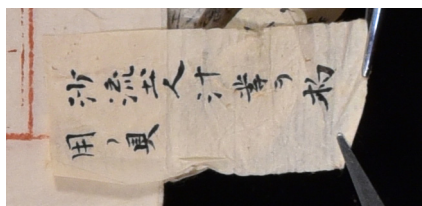
249 付箋



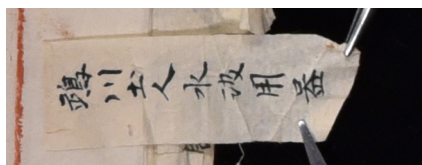
250 付箋



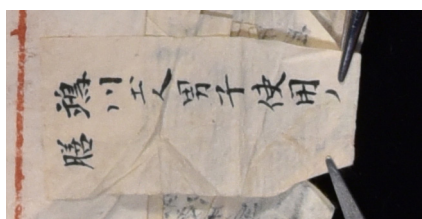
252 付箋



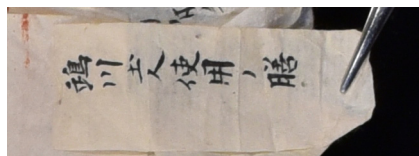
253 付箋



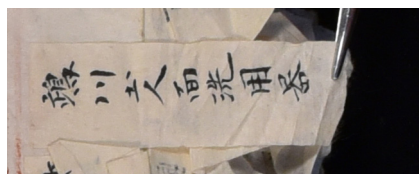
254 付箋



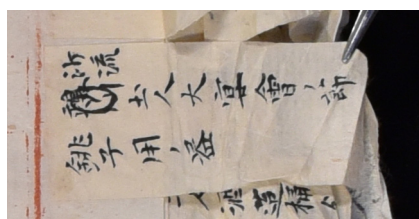
259 付箋



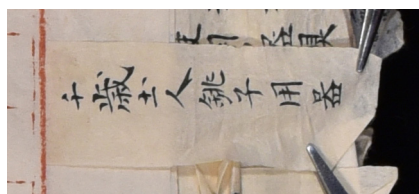
260 付箋



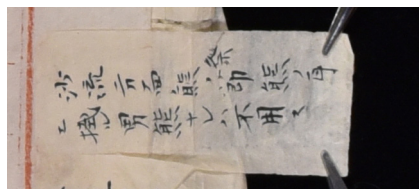
262 付箋



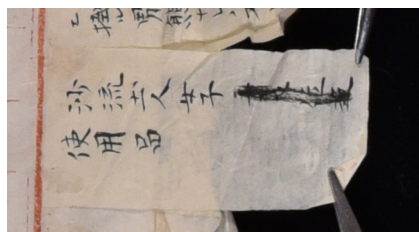
263 付箋



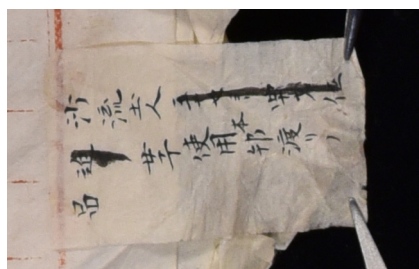
264 付箋



270 付箋



271 付箋

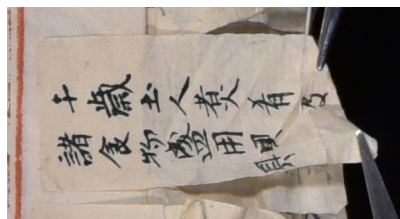


272 付箋

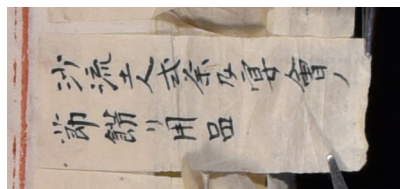
261	エヨコ子	木鉢類	さほちのき	喰事ノ部 碗
262	ニバコ子	全一 種	きんぎょ	七ノ部 膳
263	エトコ子	木片口	さほちのき	面洗用 昔ハ水石も今湯ヲ用ユ
264	エトコ子	全一 種	さほちのき	多人教命宣ノ部 盆ニツク本鉢 今ヨウシ
265	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
266	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
267	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
268	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
269	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
270	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
271	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
272	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
273	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
274	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
275	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
276	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
277	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
278	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
279	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
280	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
281	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
282	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
283	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
284	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
285	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
286	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
287	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
288	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
289	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
290	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
291	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
292	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
293	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
294	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
295	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
296	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
297	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
298	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
299	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁
300	エトコ子	木片口	さほちのき	今ナ裁

千歲
諸
沙流土
節
沙流土

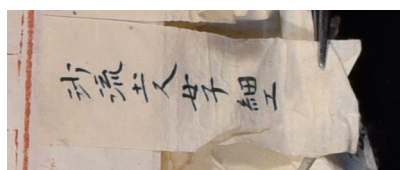
沙流女兒



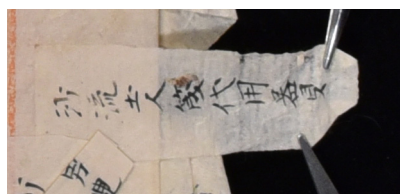
275 付箋



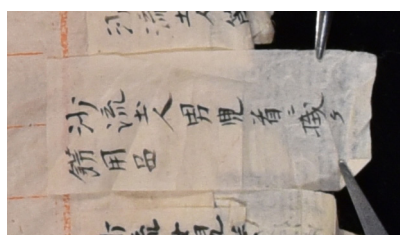
276 付箋



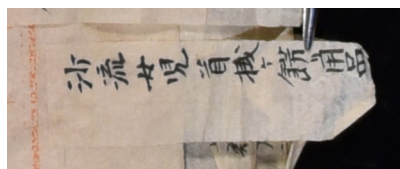
277 付箋



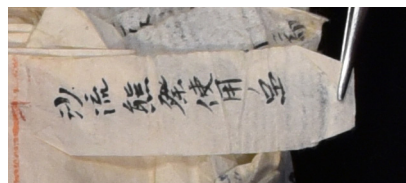
283 付箋



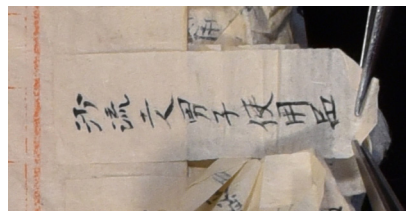
284 付箋



285 付箋



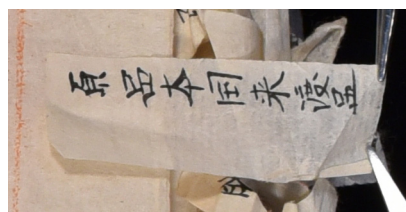
286 付箋



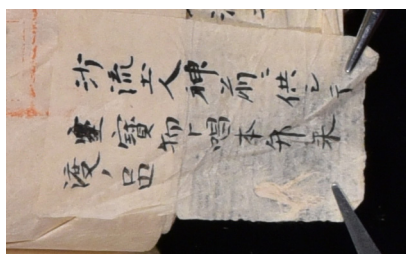
287 付箋



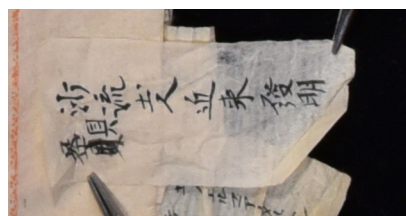
288 付箋



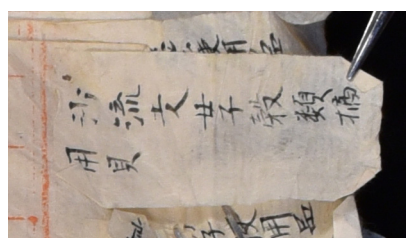
290 付箋



292 付箋



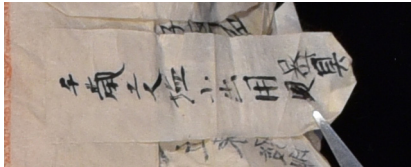
297 付箋



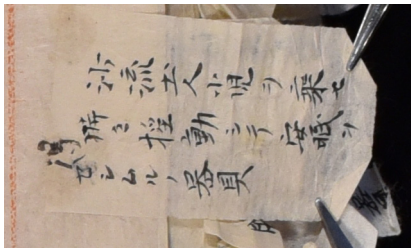
299 付箋

287 ポニタウ 万有の尾 何法
 288 レトベウ 何
 289 タニエロ 万有の尾 何法
 290 タニエロ 万有の尾 何法
 291 タニエロ 万有の尾 何法
 292 タニエロ 万有の尾 何法
 293 タニエロ 万有の尾 何法
 294 タニエロ 万有の尾 何法
 295 タニエロ 万有の尾 何法
 296 タニエロ 万有の尾 何法
 297 タニエロ 万有の尾 何法
 298 タニエロ 万有の尾 何法
 299 タニエロ 万有の尾 何法
 300 タニエロ 万有の尾 何法

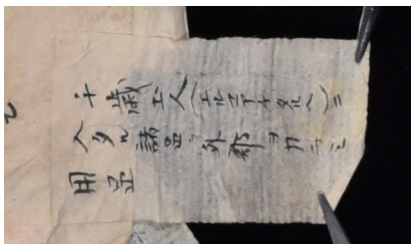
	イナヤハ	栗糠	一握ヲ摘ミ用サシノ用	
300	キナハ	塩	〇全	
		十歳塩ノ出ミ用		
301	スイナハ	赤巻	〇全	
302	スイナハ	赤巻	〇全	
303	ミナハ	小兒銅床	〇全	
304	カバナハ	銅	〇全	
305	カバナハ	銅	〇全	
	ヨニスズ			
306	ミナハ	小兒銅床	〇全	
307	ミナハ	小兒銅床	〇全	
308	ミナハ	小兒銅床	〇全	
309	ミナハ	小兒銅床	〇全	
310	ミナハ	小兒銅床	〇全	
311	ミナハ	小兒銅床	〇全	
312	ミナハ	小兒銅床	〇全	



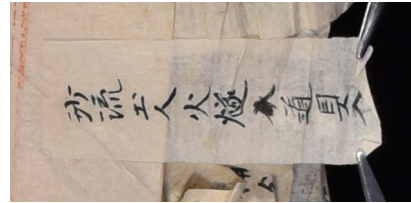
300 付箋



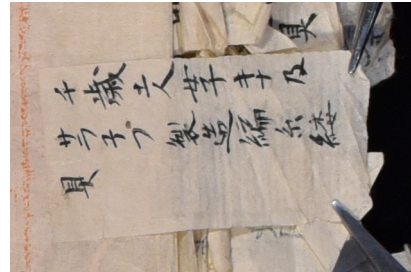
303 付箋



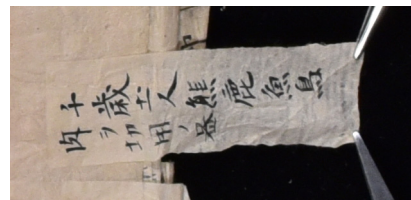
311 付箋



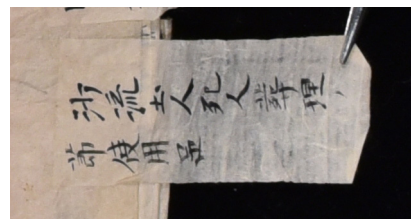
314 付箋



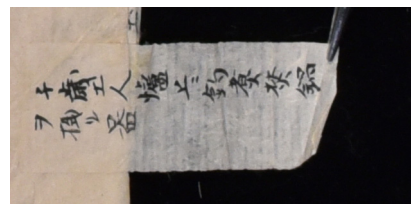
316 付箋



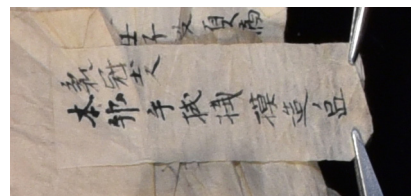
320 付箋



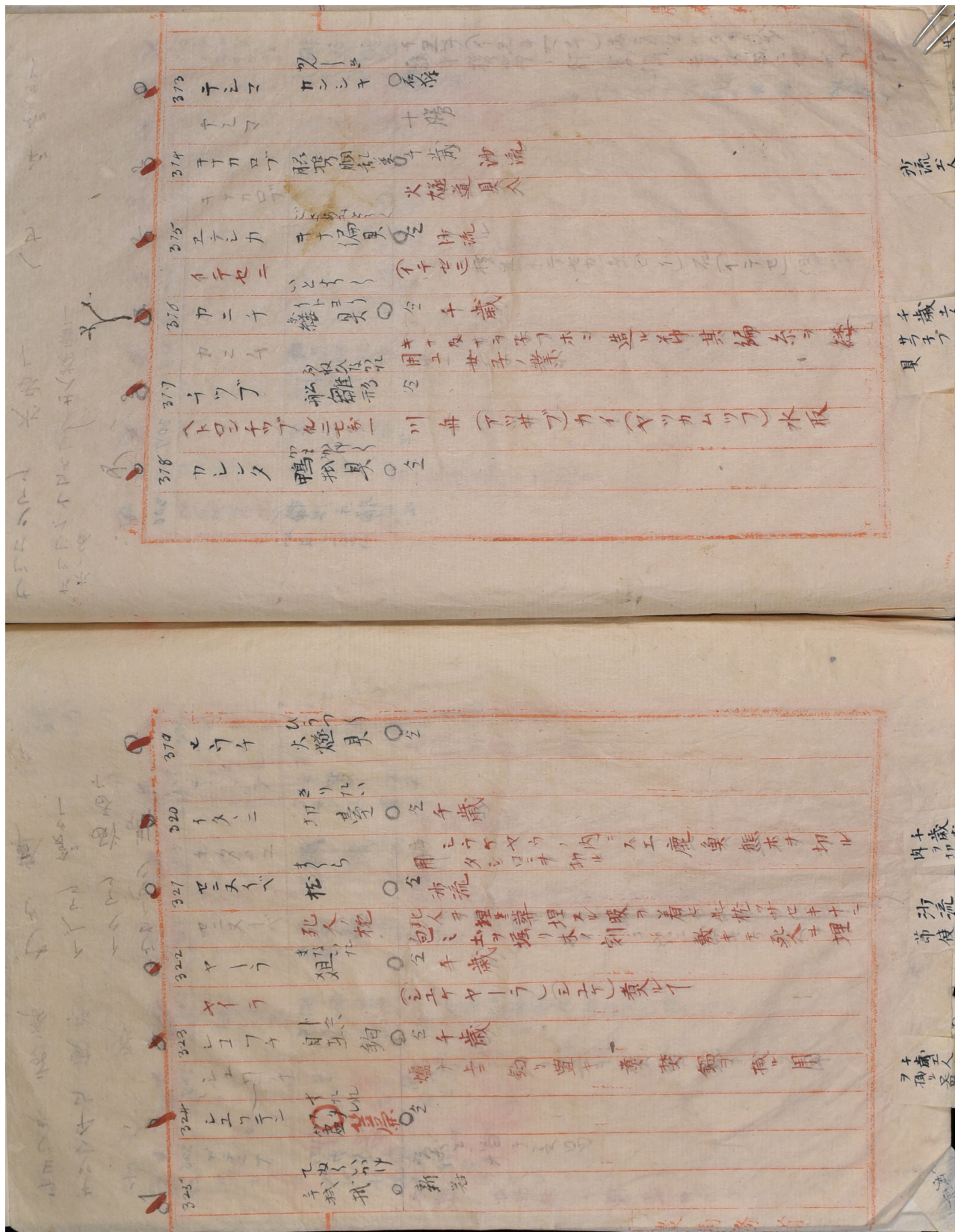
321 付箋



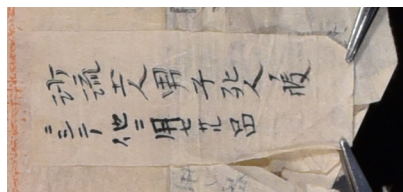
323 付箋



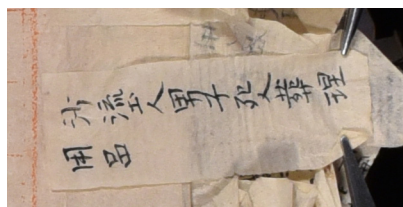
325 付箋



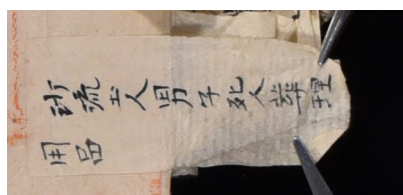
流土人
三三三
用品



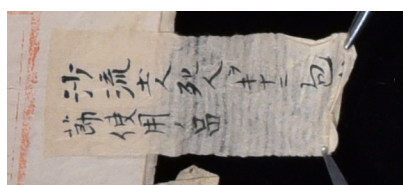
329 付箋



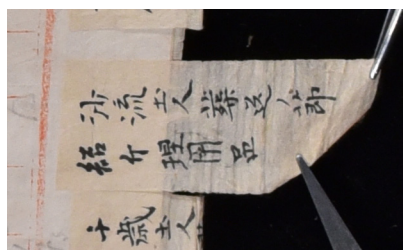
330 付箋



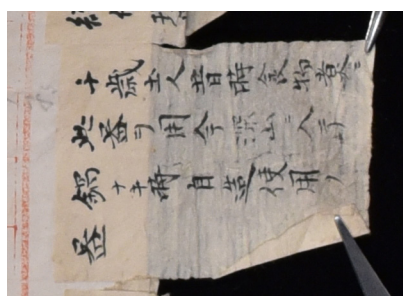
331 付箋



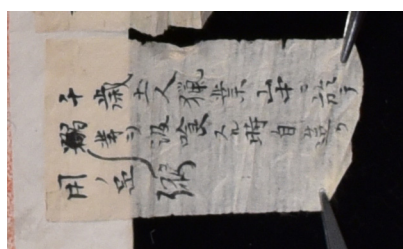
332 付箋



333 付箋



334 付箋



336 付箋

